

「2020年卒学生の就職活動の実態に関する調査」

公益社団法人全国求人情報協会の専門部会である「新卒等若年雇用部会」は、調査・研究活動の一環で、民間企業・団体への就職活動を経験した全国の大学4年生・大学院2年生を対象とするアンケート調査を実施し2020年卒学生の就職活動実態をまとめましたので、ご報告します。※スケジュールの詳細はP47に掲載しております。

TOPICS

- 民間企業・団体への就職活動を経験した大学生/大学院生の9割半ばが3月時点で進路確定。(P2)
- 就職予定先に「転職意向」であった学生は、大学生・大学院生ともに約2割。(P4)
- 大学生の就職活動の各プロセスにおける活動量は、プレエントリー21.2社、企業説明会参加14.0社、書類選考10.3社、面接など対面選考7.4社。プレエントリー数が前年に比べてやや減少している。(P16)
- 就職予定先に「就業意向」であった学生は、就職活動を開始した当初の「自己分析」「企業分析」等が十分であったと自己評価している傾向がある。(P28)
- 就職予定先に「就業意向」であった学生は、「卒業後のキャリアや就職に関する授業」が役立ったと評価している。とくに「その企業・団体等ですっと仕事を続けたい」学生の評価が高い。(P32)
- 就職活動時に利用した情報源は、「民間の就職情報会社の就職情報サイトや情報誌、各種イベント」の割合が最も多く、役に立った理由としては、「業界・企業を広く知ることができた」「(イベント・セミナーなどで)業界・企業を直接知ることができた」などが挙げられている。(P38・39)
- インターンシップに初めて参加した時期は大学生・大学院生ともに「大学3年/大学院1年の8月」の割合が最も高い。参加期間は大学生・大学院生とも「1日」が中心も、大学院生では長期参加者の割合も高い。(P40・42)

CONTENTS

①卒業後の進路確定状況..... 2	⑩就職予定先を選ぶ際の重視点..... 25
②就職予定先への納得度..... 3	⑪在学中に実施したこと..... 26
③就職予定先への就業意向..... 4	⑫就職活動による各活動への支障状況..... 27
④就職予定先への評価..... 5	⑬自己分析・企業分析等への自己評価..... 28
⑤就職予定先の企業状況..... 7	⑭就職予定先に対するイメージ..... 30
⑥就職活動の開始時期、終了時期、実施期間..... 12	⑮大学・大学院の就職支援で役立った点..... 32
⑦就職活動の各プロセスの活動量..... 16	⑯従業員規模の志向..... 34
⑧知りたかった情報、知ることができた情報..... 21	⑰役立った情報源..... 38
⑨就職予定先に関する情報源..... 23	⑱インターンシップの参加状況..... 40

●調査の概要

- 1) 調査目的: 大学生や大学院生の就職活動の実態を把握し、関係各位の参考に供する。
- 2) 調査対象: 民間企業・団体への就職活動を在学中に経験した(*)全国の大学4年生・大学院2年生 1,895人 *就職活動の経験者を、プレエントリー(資料・採用情報の請求)、説明会、書類選考、対面選考のいずれか1つ以上の経験者と定義した。当該の条件を満たす1,826人で集計を実施。
- 3) 調査時期: 2020年3月13日～31日
- 4) 調査方法: インターネット調査(調査実施機関:株式会社マクロミル)ーマクロミル社のモニターにスクリーニング調査を行って対象者を抽出し、学校種別、性別、専攻系統(文理)の構成比が母集団に近づくよう、「文部科学省学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行った。

《地域区分の内訳・調査集計の留意点》

P47「調査備考」を参照のこと。

<回収数>

大学生	1,625
文系	1,085
国公立	133
私立	951
理系	540
国公立	195
私立	346
大学院生	201

※ウェイトバック集計を行っているため、N数の内訳を足し合わせても合計と一致しない場合がある。

①卒業後の進路確定状況

**民間企業・団体への就職活動を経験した大学生・大学院生の9割半ばが3月時点で進路を確定。
国公立大学の文系大学生は、民間企業・団体以外への就職者が増加している。**

民間企業・団体への就職活動経験者は、調査を実施した3月時点では、大学生・大学院生ともに9割半ばが卒業後の進路を確定している。

2019年調査と比べると、国公立大学の文系大学生で「民間企業・団体に就職する」が減少し、「民間企業・団体以外(公務員、教員など)に就職する」が増加している。(図表1)

図表1 卒業後の進路確定状況(単一回答、単位=%)

	n=	民間企業・団体に就職する	民間企業・団体以外(公務員、教員など)に就職する	就職確定者・計	起業する	大学院などへ進学する	留学する	パート、アルバイトなどの臨時的収入を目的とした仕事に就く	留年するので、卒業しない	その他	進路確定者・計	まだ進路が確定していない
大学生	1,625	80.7 (-0.4)	6.3 (1.4)	87.1 (1.0)	0.6 (0.3)	3.8 (0.1)	0.0 (-0.8)	2.2 (0.5)	1.5 (-1.0)	0.2 (-0.5)	95.4 (-0.4)	4.6 (0.4)
文系	1,085	81.0 (-3.1)	7.3 (3.0)	88.2 (-0.1)	0.9 (0.5)	1.5 (0.1)	0.1 (-1.3)	2.7 (0.1)	1.6 (-0.0)	0.1 (-0.9)	95.1 (-1.6)	4.9 (1.6)
国公立	133	74.1 (-8.3)	15.7 (9.7)	89.8 (1.4)	2.0 (1.7)	3.2 (2.3)	0.2 (-0.9)	0.5 (-2.7)	2.0 (0.2)	0.2 (0.2)	97.9 (2.2)	2.1 (-2.2)
私立	951	81.9 (-2.3)	6.1 (2.0)	88.0 (-0.3)	0.7 (0.3)	1.3 (-0.2)	0.0 (-1.3)	3.0 (0.5)	1.6 (-0.1)	0.1 (-1.0)	94.7 (-2.1)	5.3 (2.1)
理系	540	80.3 (5.0)	4.4 (-1.9)	84.7 (3.2)	- (-)	8.5 (0.2)	- (-)	1.3 (1.3)	1.2 (-2.9)	0.4 (0.2)	96.0 (2.0)	4.0 (-2.0)
国公立	195	73.0 (4.6)	6.5 (-2.2)	79.5 (2.4)	- (-)	18.7 (8.3)	- (-)	- (-)	- (-6.5)	- (-)	98.1 (4.2)	1.9 (-4.2)
私立	346	84.4 (6.0)	3.2 (-2.0)	87.6 (4.1)	- (-)	2.7 (-4.5)	- (-)	2.0 (2.0)	1.8 (-1.1)	0.6 (0.3)	94.8 (0.7)	5.2 (-0.7)
北海道・東北	134	86.1 (5.6)	9.6 (4.6)	95.6 (10.2)	- (-)	3.1 (-2.9)	- (-0.7)	0.6 (0.6)	- (-3.6)	- (-1.4)	99.4 (2.3)	0.6 (-2.3)
関東	607	82.1 (0.4)	5.3 (-1.0)	87.4 (-0.6)	0.4 (0.4)	2.4 (-2.6)	0.1 (-1.2)	2.3 (1.0)	1.5 (0.0)	0.3 (-0.1)	94.3 (-3.1)	5.7 (3.1)
中部	312	76.6 (-6.6)	6.6 (4.4)	83.3 (-2.1)	0.4 (0.2)	6.0 (4.1)	- (-1.3)	3.5 (2.0)	2.1 (-2.4)	0.3 (-0.0)	95.5 (0.6)	4.5 (-0.6)
近畿	359	81.2 (-3.2)	5.7 (2.7)	86.9 (-0.4)	0.8 (-0.3)	4.0 (3.0)	0.1 (0.1)	1.4 (-0.8)	2.0 (-1.6)	0.2 (-0.5)	95.3 (-0.6)	4.7 (0.6)
中国・四国	108	85.5 (12.5)	8.6 (1.5)	94.1 (14.0)	- (-)	5.3 (-0.7)	- (-)	0.3 (-1.0)	- (-0.4)	- (-3.6)	99.7 (8.3)	0.3 (-8.3)
九州	105	72.1 (0.9)	7.2 (-1.9)	79.2 (-1.1)	2.8 (2.8)	4.8 (0.3)	- (-1.3)	4.5 (-1.6)	1.4 (1.4)	- (-)	92.7 (0.5)	7.3 (-0.5)
大学院生	201	82.6 (-3.0)	6.5 (-0.1)	89.1 (-3.1)	- (-)	3.5 (2.2)	- (-0.7)	1.0 (-1.0)	1.5 (0.8)	1.0 (1.0)	96.0 (-0.7)	4.0 (0.7)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、10ポイント以上低いセルを濃い青色■で網掛けした。

②就職予定先への納得度

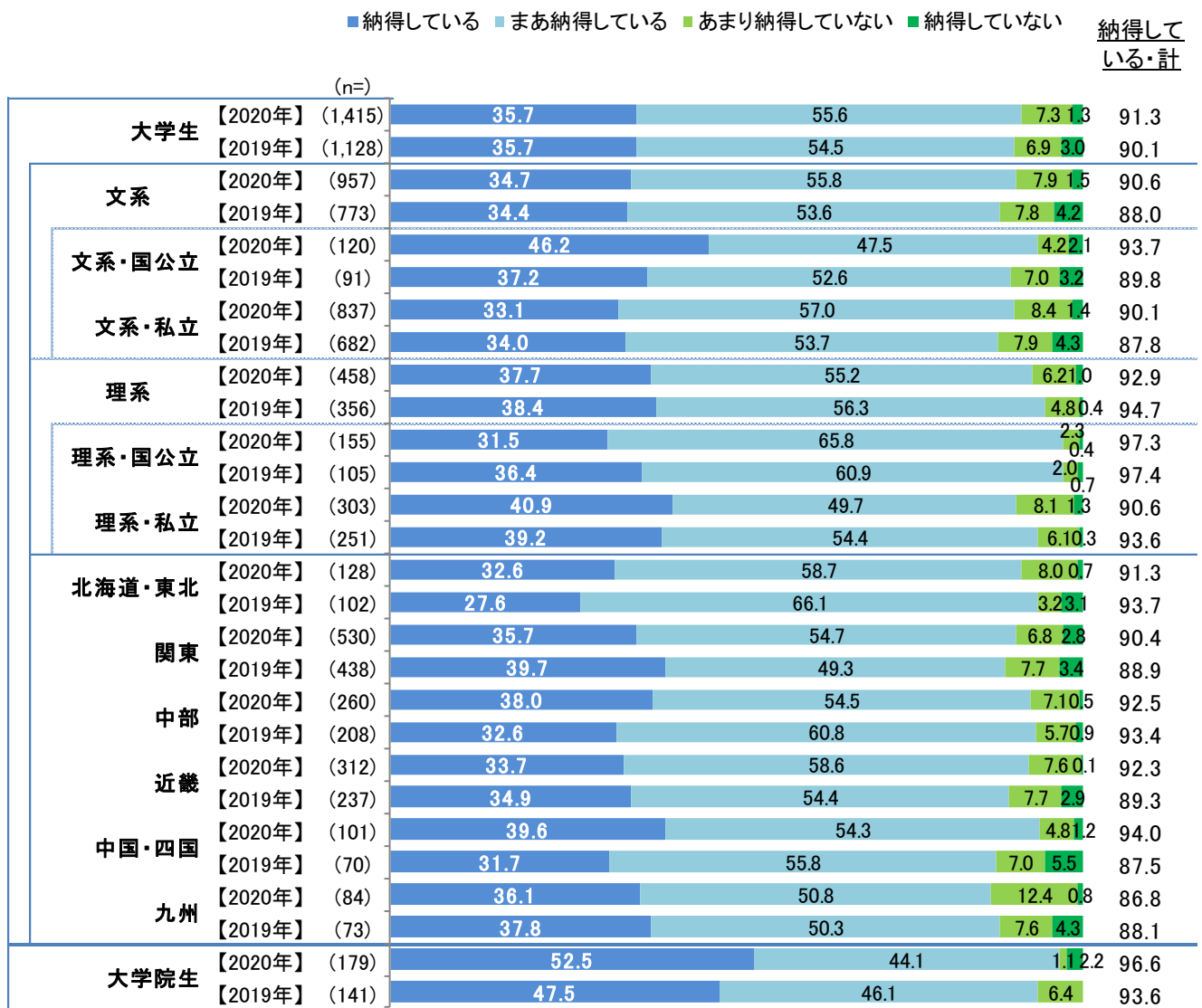
就職確定者の就職先への納得度は、大学生で約9割、大学院生で9割半ばで、引き続き高い水準。文系大学生よりも理系大学生の納得度が高い。

就職確定者の就職先への納得している・計(*)は、大学生が約9割、大学院生が9割半ばとなっている。属性別にみると、文系大学生よりも理系大学生の納得している・計が高く、とくに国公立大学の理系大学生が高い。

2019年調査と比べると、文系大学生の納得している・計がわずかに増加している一方で、理系大学生では納得している・計がわずかに低下している。(図表2)

*「納得している」「まあ納得している」の回答者を合計

図表2 就職確定者の就職予定先への納得度(単一回答、単位=%)



※納得している・計:「納得している」+「まあ納得している」

③就職予定先への就業意向

就職予定先に「転職意向」であった学生は、大学生・大学院生ともに約2割。

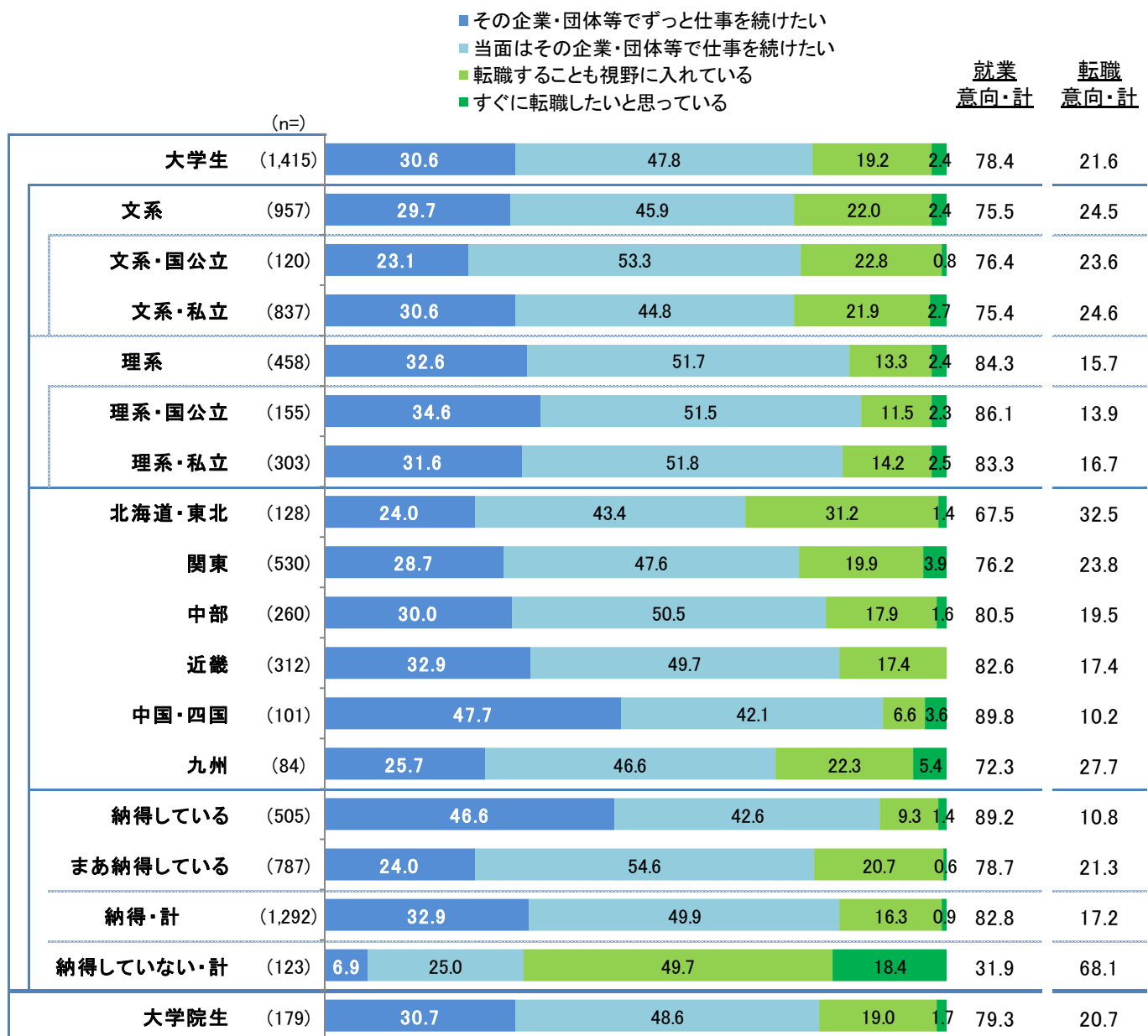
就職確定者の就職先への就業意向・計(*1)は、大学生・大学院生ともに8割弱となっており、その中で「その企業・団体等ですっと仕事を続けたい」が3割、「当面はその企業・団体等で仕事を続けたい」が5割弱の内訳となっている。文系大学生よりも理系大学生の方が就業意向・計が高い。

転職意向・計(*2)は、大学生・大学院生ともに2割程度となっている。その中で「転職することも視野に入れている」が大半で、「すぐに転職したいと思っている」は学生の2%程度である。(図表3)

*1「その企業・団体等ですっと仕事を続けたい」「当面はその企業・団体等で仕事を続けたい」の回答者を合計

*2「転職することも視野に入れている」「すぐに転職したいと思っている」の回答者を合計

図表3 就職確定者の就職予定先への就業意向・転職意向(単一回答、単位=%)



※就業意向・計:「その企業・団体等ですっと仕事を続けたい」+「当面はその企業・団体等で仕事を続けたい」

※転職意向・計:「転職することも視野に入れている」+「すぐに転職したいと思っている」

④就職予定先への評価

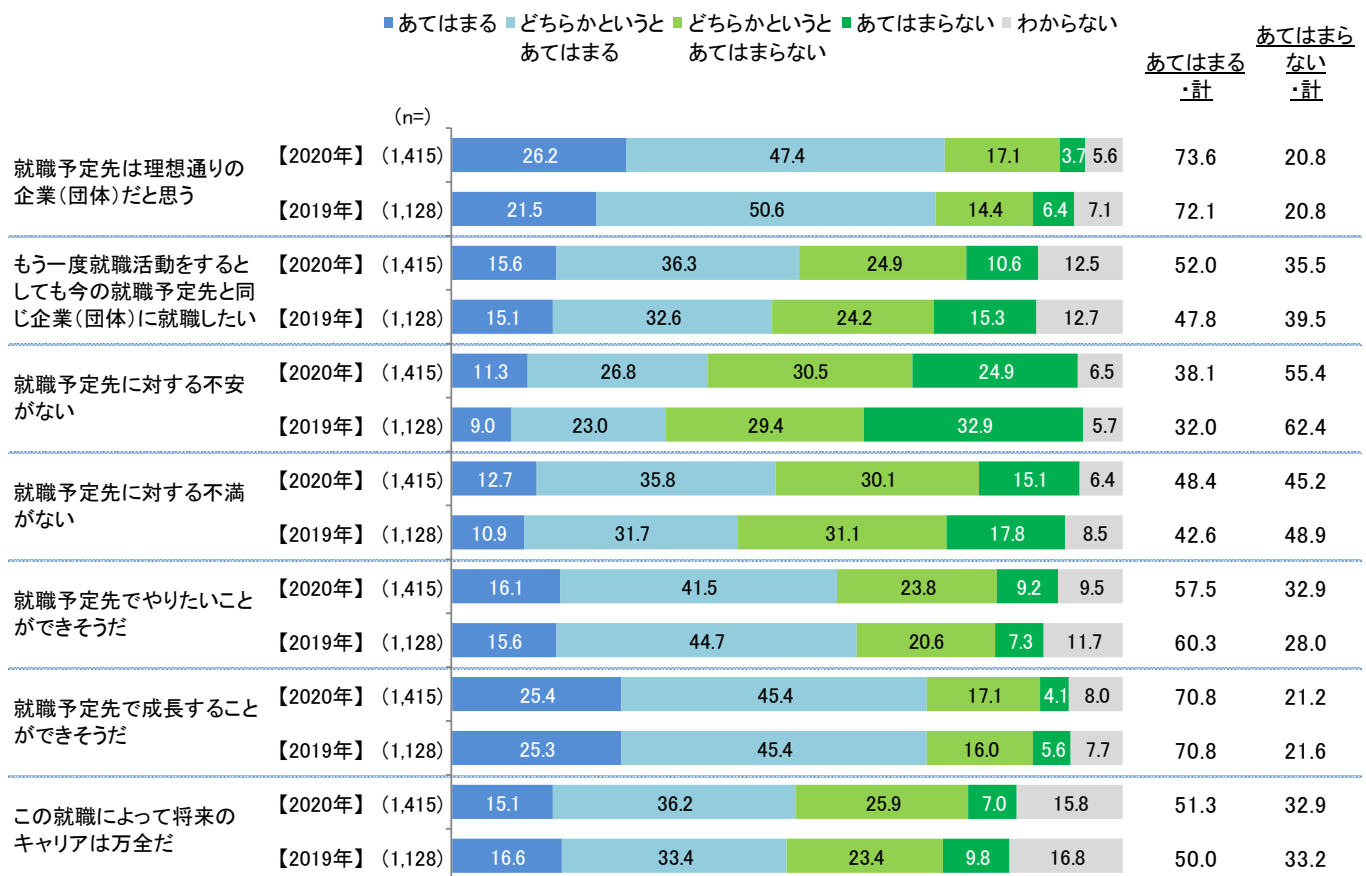
就職予定先への評価は、大学生で「理想通りの企業だと思う」「成長することができそうだ」が7割。大学生よりも大学院生で就職先への評価が高い。

就職確定者における就職予定先への評価(*)は、大学生は「就職予定先は理想通りの企業だと思う」「就職予定先で成長することができそうだ」は7割、「就職予定先に対する不安がない」は4割弱となっている。また、大学生よりも大学院生で「就職予定先は理想通りの企業だと思う」「就職予定先に対する不安がない」「就職予定先に対する不満がない」「就職予定先で成長することができそうだ」などの割合が高い。

2019年調査と比べると、大学生・大学院生ともに「就職予定先に対する不安がない」「就職予定先に対する不満がない」と評価する学生が増加している。大学院生においては、「就職予定先でやりたいことができそうだ」と評価する学生が減少している。(図表4-1～2)

*「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」の回答者を合計

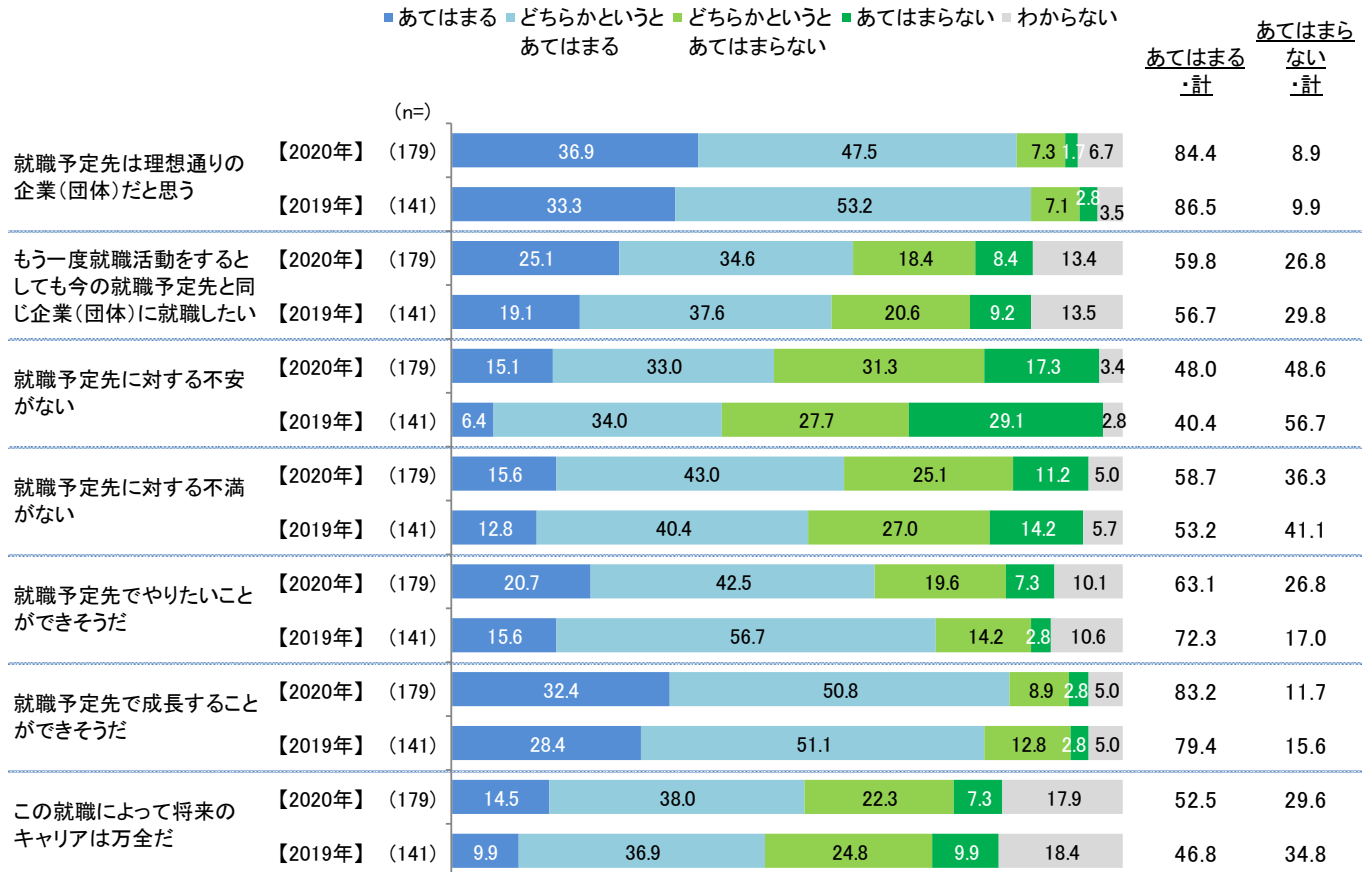
図表4-1 【大学生】就職確定者の就職予定先への評価(単一回答、単位=%)



※あてはまる・計:「あてはまる」+「どちらかというにあてはまる」/あてはまらない・計:「どちらかというにあてはまらない」+「あてはまらない」

④就職予定先への評価

図表4-2 【大学院生】就職確定者の就職予定先への評価(単一回答、単位=%)



※あてはまる・計:「あてはまる」+「どちらかというとあてはまる」/あてはまらない・計:「どちらかというとあてはまらない」+「あてはまらない」

⑤就職予定先の企業状況

大学生は「情報通信業」「製造業」「卸売業、小売業」、大学院生は「製造業」「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」が上位。

就職確定者における就職予定先の業種は、大学生は「情報通信業」「製造業」「卸売業、小売業」の順に割合が高い。大学院生は「製造業」「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」の順に割合が高い。属性別にみると、国公立大学の文系大学生は大学生全体に比べて「金融業、保険業」や「公務」の割合が高い。国公立大学の理系大学生は大学生全体に比べて「情報通信業」の割合が高い。

2019年調査と比べると、文系大学生では「卸売業、小売業」がやや減少し、「情報通信業」がやや増加している。一方で理系大学生では「情報通信業」がやや減少し、「製造業」が増加している。(図表5)

図表5 就職確定者の就職予定先の業種(単一回答、単位=%)

	n=	農業、林業	漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業
大学生	1,415	1.2 (-0.2)	- (-0.2)	0.7 (0.6)	6.3 (1.5)	13.0 (0.9)	1.7 (-0.1)	13.3 (1.2)	4.8 (-0.7)	10.9 (-0.9)	7.4 (-0.0)	2.9 (-0.4)
文系	957	0.9 (0.1)	- (-)	0.7 (0.4)	3.5 (1.2)	8.9 (-1.2)	1.1 (0.4)	12.1 (2.9)	6.1 (-1.2)	12.5 (-2.3)	9.6 (-0.5)	3.8 (-0.2)
国公立	120	1.2 (0.9)	- (-)	1.2 (-0.0)	5.5 (5.1)	6.4 (-8.3)	3.3 (1.2)	15.8 (2.3)	3.6 (-0.8)	6.6 (-1.5)	13.3 (-1.9)	2.3 (-0.7)
私立	837	0.8 (0.0)	- (-)	0.6 (0.5)	3.3 (0.6)	9.3 (-0.3)	0.8 (0.3)	11.6 (2.9)	6.5 (-1.2)	13.3 (-2.4)	9.1 (-0.3)	4.0 (-0.1)
理系	458	1.7 (-0.8)	- (-0.6)	0.8 (0.8)	12.1 (1.9)	21.4 (5.1)	2.9 (-1.2)	15.8 (-2.4)	2.2 (0.3)	7.5 (2.4)	3.0 (1.2)	1.1 (-0.9)
国公立	155	2.3 (0.4)	- (-2.0)	- (-)	9.6 (2.9)	22.2 (2.7)	5.4 (1.5)	23.4 (-3.8)	2.3 (0.4)	3.5 (0.2)	3.9 (1.2)	- (-0.7)
私立	303	1.4 (-1.4)	- (-)	1.2 (1.2)	13.4 (1.6)	21.0 (6.1)	1.7 (-2.5)	11.9 (-2.5)	2.1 (0.2)	9.5 (3.7)	2.5 (1.0)	1.6 (-0.9)
北海道・東北	128	5.9 (1.2)	- (-)	0.3 (0.3)	6.9 (-4.2)	3.0 (-4.4)	0.9 (0.9)	11.2 (-2.3)	2.6 (2.6)	10.8 (4.6)	9.8 (-0.1)	0.3 (-1.2)
関東	530	0.8 (0.2)	- (-)	0.3 (0.1)	3.9 (0.1)	11.6 (4.0)	2.4 (0.2)	16.2 (-0.7)	5.3 (-0.2)	11.0 (1.6)	6.8 (0.1)	4.8 (0.5)
中部	260	0.4 (-2.7)	- (-)	1.1 (1.1)	7.7 (3.5)	19.2 (0.4)	0.4 (-0.6)	14.0 (2.8)	4.9 (-2.7)	10.7 (-6.8)	4.6 (-0.7)	1.9 (1.2)
近畿	312	- (-0.5)	- (-)	1.3 (1.3)	8.0 (3.5)	14.4 (-2.9)	2.3 (0.3)	8.1 (1.8)	4.5 (-3.1)	11.8 (-1.5)	7.8 (-1.4)	3.0 (-1.6)
中国・四国	101	0.6 (0.6)	- (-2.9)	- (-1.2)	10.2 (5.6)	16.2 (0.3)	1.2 (0.3)	12.9 (8.4)	4.7 (-0.6)	5.3 (-0.9)	10.8 (-0.8)	0.3 (-1.8)
九州	84	3.6 (3.6)	- (-)	1.4 (1.4)	5.6 (0.0)	8.2 (2.5)	0.7 (-2.5)	15.5 (6.4)	6.5 (4.9)	13.7 (-3.3)	11.4 (6.2)	1.4 (-4.5)
大学院生	179	- (-)	- (-)	0.6 (0.6)	5.6 (2.0)	41.3 (-1.2)	2.2 (0.8)	14.5 (-1.1)	1.1 (-3.8)	2.8 (-0.0)	1.1 (1.1)	1.1 (-0.3)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに選択率が最も多い区分を**赤太字**にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、10ポイント以上低いセルを濃い青色■で網掛けした。

⑤就職予定先の企業状況

※前ページより続き

	n=	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）	公務（他に分類されるものを除く）	NPO等団体	その他
大学生	1,415	2.4 (-0.0)	2.2 (-1.8)	3.1 (1.1)	4.1 (-0.1)	10.7 (0.1)	2.4 (0.3)	5.4 (-3.1)	4.9 (0.9)	0.3 (0.3)	2.4 (0.6)
文系	957	1.6 (-0.8)	2.5 (-2.3)	4.2 (1.4)	5.8 (0.3)	9.1 (2.9)	2.7 (-0.0)	6.2 (-3.9)	6.6 (2.9)	0.5 (0.5)	1.8 (-0.7)
国公立	120	1.4 (-0.3)	2.3 (0.0)	1.4 (-3.5)	7.8 (3.4)	5.8 (0.3)	2.2 (-0.3)	6.5 (0.2)	12.6 (6.5)	- (-)	1.0 (-2.6)
私立	837	1.6 (-0.9)	2.5 (-2.6)	4.6 (2.0)	5.5 (-0.1)	9.5 (3.3)	2.8 (0.0)	6.1 (-4.4)	5.7 (2.4)	0.6 (0.5)	1.9 (-0.4)
理系	458	4.0 (1.6)	1.6 (-0.7)	0.8 (0.8)	0.5 (-0.9)	14.3 (-6.1)	1.7 (1.0)	3.7 (-1.4)	1.4 (-3.2)	- (-)	3.6 (3.3)
国公立	155	4.8 (3.4)	1.6 (-0.4)	- (-)	1.2 (0.5)	10.9 (-6.0)	1.6 (1.6)	1.6 (-1.2)	2.7 (-3.8)	- (-)	3.1 (3.1)
私立	303	3.6 (0.7)	1.6 (-0.9)	1.1 (1.1)	0.2 (-1.6)	16.0 (-5.8)	1.7 (0.8)	4.8 (-1.3)	0.7 (-3.1)	- (-)	3.8 (3.4)
北海道・東北	128	5.5 (5.5)	1.4 (-6.2)	3.1 (-2.0)	4.5 (-0.2)	16.6 (6.3)	2.3 (-3.3)	2.5 (-5.2)	7.9 (5.3)	2.3 (2.3)	2.3 (0.1)
関東	530	1.6 (-2.4)	2.5 (-1.4)	4.1 (1.9)	2.9 (-2.3)	8.1 (0.1)	2.2 (-0.1)	6.9 (-1.4)	5.0 (-1.5)	0.3 (0.2)	3.2 (1.1)
中部	260	2.8 (0.6)	2.3 (0.2)	2.3 (1.3)	5.4 (4.0)	9.1 (-3.9)	1.4 (-0.1)	4.5 (-4.6)	6.3 (5.8)	- (-)	1.3 (1.3)
近畿	312	2.2 (0.6)	2.5 (-1.9)	3.3 (1.3)	5.6 (3.4)	11.7 (3.0)	2.4 (1.5)	6.6 (-2.9)	2.8 (-0.6)	0.1 (0.1)	1.7 (-0.3)
中国・四国	101	3.7 (3.7)	1.0 (1.0)	- (-)	2.3 (-3.8)	12.0 (-9.0)	7.8 (5.4)	3.2 (-3.7)	3.1 (-0.7)	- (-)	4.7 (0.3)
九州	84	- (-1.1)	1.2 (-6.0)	1.9 (1.9)	3.1 (-7.1)	18.6 (2.4)	- (-0.4)	1.2 (-6.2)	5.7 (3.2)	- (-)	0.4 (-1.2)
大学院生	179	10.1 (0.1)	1.1 (1.1)	1.1 (1.1)	1.7 (-1.2)	7.3 (1.6)	0.6 (-0.2)	1.1 (-3.1)	5.6 (2.7)	- (-0.7)	1.1 (0.4)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色で網掛けした。

⑤就職予定先の企業状況

**就職予定先の従業員規模として最も割合が高いのは、大学生は「300人～999人」、
大学院生は「1000人～4999人」。**

就職確定者における就職予定先の従業員規模は、大学生は「300人～999人」の割合が最も高い。大学院生は「1000人～4999人」の割合が最も高い。大学生の属性別にみると、国公立大学の理系大学生は、「1000人～4999人」の割合が最も高い。

2019年調査と比べると、北海道・東北では「100人～299人」が大きく減少し、「300人～999人」が大きく増加している。
(図表6)

図表6 就職確定者の就職予定先の従業員規模(単一回答、単位=%)

n=		100人未満	100人～299人	300人～999人	1000人～4999人	5000人以上
大学生	1,415	15.5 (-1.3)	20.6 (-1.2)	26.8 (1.1)	21.1 (0.5)	16.1 (1.0)
文系	957	18.4 (-0.8)	19.4 (-1.4)	27.1 (1.2)	21.1 (1.3)	14.0 (-0.3)
国公立	120	17.8 (7.9)	17.0 (1.0)	26.7 (-7.1)	21.6 (2.1)	17.0 (-4.0)
私立	837	18.5 (-1.9)	19.7 (-1.7)	27.2 (2.3)	21.1 (1.1)	13.6 (0.2)
理系	458	9.4 (-2.2)	23.2 (-1.0)	26.0 (0.8)	21.0 (-1.3)	20.4 (3.7)
国公立	155	5.4 (-9.8)	26.6 (8.4)	21.1 (-5.0)	27.2 (1.5)	19.7 (4.9)
私立	303	11.4 (1.3)	21.4 (-5.3)	28.6 (3.7)	17.9 (-3.0)	20.8 (3.3)
北海道・東北	128	15.8 (-2.8)	14.3 (-12.6)	35.6 (11.4)	16.0 (-4.5)	18.3 (8.6)
関東	530	14.4 (-0.6)	21.4 (2.9)	22.5 (-3.9)	21.6 (1.6)	20.2 (0.1)
中部	260	16.3 (-6.3)	23.5 (1.9)	26.0 (3.3)	23.4 (2.0)	10.8 (-1.0)
近畿	312	15.7 (1.0)	17.6 (-3.6)	29.7 (1.6)	23.2 (1.6)	13.7 (-0.6)
中国・四国	101	17.6 (0.4)	22.9 (-8.7)	30.4 (7.8)	15.6 (-5.7)	13.6 (6.1)
九州	84	15.7 (1.0)	24.4 (-3.7)	27.6 (0.1)	17.8 (-1.1)	14.5 (3.8)
大学院生	179	7.8 (2.9)	11.2 (-0.9)	21.8 (-0.2)	31.3 (5.0)	27.9 (-6.8)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに選択率が最も多い区分を**赤太字**にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色で網掛けした。

⑤就職予定先の企業状況

職種は大学生・大学院生ともに「総合職」の割合が最も多い。大学生で「総合職」がわずかに増加し、大学院生で「一般職」がやや増加している。

就職確定者において、就職予定先で応募した採用・コースは、大学生・大学院生ともに「総合職」の割合が最も高い。属性別にみると、大学生の文理別、エリア別のいずれも「総合職」の割合が最も高い。

2019年調査と比べると、大学生で「総合職」がわずかに増加しており、とくに国公立大学の理系大学生の「総合職」が増加している。大学院生で「一般職」が増加している。(図表7)

図表7 就職確定者の就職予定先で応募した採用・コース(単一回答、単位=%)

n=		総合職	一般職	地域限定職	職務限定職	その他の採用 または職種・ コース	採用または 職種・コース等 の定めがない
大学生	1,415	53.0 (1.9)	20.9 (-0.6)	3.9 (-0.5)	7.4 (0.6)	5.0 (-2.1)	9.7 (0.7)
文系	957	56.3 (2.0)	20.6 (-1.4)	4.9 (-0.9)	4.5 (-0.1)	4.9 (-0.1)	8.8 (0.4)
国公立	120	65.5 (-1.1)	14.4 (-1.6)	5.5 (1.9)	4.3 (1.6)	2.9 (-1.6)	7.4 (0.6)
私立	837	55.0 (2.4)	21.4 (-1.3)	4.9 (-1.2)	4.5 (-0.3)	5.2 (0.1)	9.0 (0.4)
理系	458	46.2 (1.9)	21.7 (1.1)	1.8 (0.4)	13.6 (1.7)	5.2 (-6.2)	11.5 (1.1)
国公立	155	55.0 (9.8)	20.4 (3.8)	1.6 (-1.2)	11.0 (-2.4)	5.1 (-6.6)	7.0 (-3.4)
私立	303	41.6 (-2.2)	22.4 (0.0)	1.9 (1.1)	15.0 (3.7)	5.2 (-6.1)	13.9 (3.5)
北海道・東北	128	52.1 (7.2)	20.6 (-4.1)	2.3 (-6.8)	9.1 (6.4)	5.9 (-0.8)	9.9 (-2.0)
関東	530	53.0 (0.1)	22.7 (3.3)	3.1 (0.1)	6.2 (-1.1)	4.8 (-4.1)	10.2 (1.6)
中部	260	50.5 (4.2)	21.9 (-8.4)	3.4 (0.6)	7.6 (0.8)	4.4 (-1.1)	12.2 (3.8)
近畿	312	56.2 (2.5)	17.1 (1.0)	6.4 (-1.1)	7.6 (-0.2)	4.9 (-1.5)	7.8 (-0.7)
中国・四国	101	51.4 (-0.5)	22.7 (2.1)	1.5 (-1.8)	8.6 (0.6)	7.6 (2.1)	8.2 (-2.4)
九州	84	52.3 (-1.5)	19.1 (-4.0)	7.1 (4.6)	10.3 (4.1)	3.8 (-0.4)	7.5 (-2.7)
大学院生	179	67.0 (-1.8)	12.3 (4.5)	0.6 (0.6)	8.4 (-0.8)	5.6 (-1.5)	6.1 (-0.9)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに選択率が最も多い区分を**赤太字**にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色で網掛けした。

⑤就職予定先の企業状況

**大学生・大学院生ともに就職予定先が「当初から第1志望(群)だった」割合が最も高い。
国公立大学の文系大学生の「当初から第1志望(群)だった」割合が増加。**

就職確定者における就職予定先の当初の志望状況は、大学生・大学院生ともに「当初から第1志望(群)だった」の割合が最も高い。大学院生は大学生に比べ「当初から第1志望(群)だった」の割合がとて高い。地域別にみると、九州では「第1志望(群)」ではないが、当初から志望していた」の割合が最も高い。

2019年調査と比べると、国公立大学の文系大学生で「当初から第1志望(群)だった」の割合が増加している。(図表8)

図表8 就職確定者の就職活動を開始した当初の就職予定先の志望状況(単一回答、単位=%)

n=		当初から第1志望(群)だった	第1志望(群)ではないが、当初から志望していた	当初はまったく志望していなかった
大学生	1,415	41.9 (1.6)	30.6 (1.0)	27.4 (-2.6)
文系	957	39.6 (2.6)	31.2 (0.2)	29.3 (-2.8)
国公立	120	46.4 (9.9)	29.2 (-9.5)	24.4 (-0.5)
私立	837	38.6 (1.5)	31.5 (1.5)	30.0 (-3.1)
理系	458	46.9 (-0.7)	29.5 (2.6)	23.5 (-1.9)
国公立	155	57.1 (8.5)	27.7 (0.2)	15.2 (-8.7)
私立	303	41.8 (-5.5)	30.4 (3.8)	27.8 (1.7)
北海道・東北	128	37.6 (-6.9)	33.1 (7.9)	29.2 (-1.0)
関東	530	43.1 (1.5)	32.3 (4.1)	24.6 (-5.6)
中部	260	40.2 (-0.4)	25.5 (-3.2)	34.2 (3.6)
近畿	312	43.8 (4.7)	28.8 (-1.4)	27.4 (-3.3)
中国・四国	101	45.3 (9.5)	25.9 (-13.7)	28.8 (4.1)
九州	84	35.6 (0.6)	44.7 (8.8)	19.7 (-9.4)
大学院生	179	60.3 (-0.7)	23.5 (1.5)	16.2 (-0.8)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色で網掛けした。

⑥就職活動の開始時期、終了時期、実施期間

就職活動に関する情報収集の開始時期の割合は、「大学3年/大学院1年の6～9月頃」が最も高い。終了時期は「大学4年/大学院2年の6月頃」が最も高い。

就職活動の進め方やノウハウに関する情報収集の開始時期は、大学生・大学院生ともに「大学3年/大学院1年の6～9月頃」の割合が最も高い。2019年調査と比べると、私立大学の理系大学生で「大学3年/大学院1年の5月以前」「大学3年/大学院1年の6～9月」の割合が減少している。

プレエントリー、企業説明会の開始時期は、いずれの属性でも「大学3年/大学院1年の3月頃」の割合が最も高い。2019年調査と比べると、国公立大学の文系大学生や大学院生で「大学3年/大学院1年の3月頃」の割合が減少し、「大学3年/大学院1年の1～2月頃」の割合が増加している。（図表9）

図表9 就職活動の開始時期（単一回答、単位=%） ※各実施者ベース

			大学3年／大学院1年					大学4年／大学院2年			
			n=	5月以前	6～9月頃	10～11月頃	12月頃	1～2月頃	3月頃	4～5月頃	6～7月頃
就職活動の進め方やノウハウに関する情報収集	大学生	1,545	14.6 (0.7)	26.3 (1.2)	15.3 (1.8)	7.2 (-1.0)	15.2 (-1.1)	11.3 (-0.5)	6.3 (-0.9)	1.4 (-0.0)	2.5 (-0.3)
	文系	1,029	15.0 (2.6)	27.6 (2.9)	14.8 (1.0)	7.6 (-1.4)	13.8 (-2.2)	11.9 (-1.8)	5.4 (-1.9)	1.4 (0.6)	2.5 (0.1)
	国公立	128	13.3 (1.7)	28.1 (-1.6)	15.3 (-2.1)	12.2 (-1.3)	13.5 (-0.1)	8.5 (0.4)	6.6 (2.1)	0.8 (0.4)	1.8 (0.5)
	私立	901	15.2 (2.8)	27.6 (3.5)	14.7 (1.4)	6.9 (-1.5)	13.8 (-2.5)	12.4 (-2.0)	5.3 (-2.5)	1.5 (0.6)	2.6 (0.1)
	理系	517	13.9 (-3.1)	23.6 (-2.1)	16.5 (3.2)	6.4 (-0.0)	17.8 (1.0)	10.2 (2.2)	7.9 (1.2)	1.4 (-1.3)	2.4 (-1.2)
	国公立	188	15.2 (4.2)	28.4 (-3.5)	16.6 (4.3)	6.2 (0.9)	17.3 (3.3)	7.4 (-2.2)	5.8 (-0.6)	2.6 (-1.1)	0.6 (-5.2)
	私立	329	13.2 (-6.6)	20.9 (-1.9)	16.4 (2.7)	6.4 (-0.4)	18.2 (0.0)	11.8 (4.5)	9.1 (2.3)	0.7 (-1.5)	3.3 (0.8)
	大学院生	188	17.6 (1.7)	30.3 (-2.8)	10.1 (-0.2)	7.4 (-0.8)	17.6 (-1.8)	7.4 (-0.1)	3.2 (1.1)	3.2 (2.5)	3.2 (0.4)

プレエントリー	大学生	1,503	4.0 (-0.1)	9.9 (-1.7)	8.3 (1.0)	6.1 (0.9)	20.8 (3.8)	32.9 (-3.6)	11.9 (0.7)	3.0 (0.2)	3.2 (-1.2)
	文系	1,012	3.9 (0.1)	9.7 (-2.0)	8.6 (1.5)	6.3 (2.9)	20.7 (3.5)	32.2 (-5.2)	12.5 (0.7)	3.6 (1.2)	2.6 (-2.7)
	国公立	120	3.1 (1.0)	5.7 (-5.7)	9.0 (1.5)	4.4 (2.2)	29.5 (11.3)	31.2 (-11.9)	12.4 (0.4)	3.3 (2.9)	1.4 (-1.8)
	私立	893	4.0 (0.0)	10.3 (-1.5)	8.5 (1.5)	6.5 (3.0)	19.6 (2.4)	32.3 (-4.3)	12.5 (0.7)	3.6 (0.9)	2.7 (-2.8)
	理系	490	4.3 (-0.6)	10.1 (-1.1)	7.8 (-0.2)	5.9 (-3.2)	21.0 (4.4)	34.2 (-0.3)	10.6 (0.7)	1.7 (-1.8)	4.4 (2.0)
	国公立	183	4.4 (2.1)	12.8 (2.5)	7.0 (-4.6)	3.7 (-4.8)	21.2 (1.6)	34.1 (5.5)	9.2 (-1.8)	1.6 (-4.6)	5.9 (4.2)
	私立	307	4.3 (-1.8)	8.5 (-3.1)	8.2 (1.9)	7.2 (-2.1)	20.8 (5.7)	34.3 (-2.9)	11.4 (2.0)	1.8 (-0.5)	3.6 (0.7)
	大学院生	188	2.7 (-0.0)	11.7 (2.2)	7.4 (-3.4)	7.4 (4.7)	20.7 (4.5)	34.6 (-11.4)	6.4 (-1.0)	3.7 (2.4)	5.3 (1.9)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに選択率が最も多い区分を**赤太字**にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、10ポイント以上低いセルを濃い青色■で網掛けした。

⑥就職活動の開始時期、終了時期、実施期間

※前ページより続き

		n=	大学3年／大学院1年						大学4年／大学院2年		
			5月以前	6～9月頃	10～11月頃	12月頃	1～2月頃	3月頃	4～5月頃	6～7月頃	8月以降
企業説明会	大学生	1,565	4.0 (-0.8)	9.6 (-1.5)	8.7 (1.1)	7.2 (1.3)	19.6 (3.5)	30.4 (-0.6)	13.5 (-2.0)	2.9 (-0.4)	4.2 (-0.6)
	文系	1,050	4.0 (-0.2)	9.7 (-1.9)	9.4 (2.0)	6.1 (1.5)	19.3 (3.6)	29.9 (-1.3)	14.8 (-1.9)	2.7 (-0.9)	4.1 (-0.9)
	国公立	124	3.0 (-0.1)	6.7 (-6.2)	9.5 (3.4)	7.1 (0.1)	24.6 (11.6)	30.6 (-7.3)	12.8 (-2.2)	3.4 (2.5)	2.1 (-1.7)
	私立	927	4.1 (-0.2)	10.1 (-1.3)	9.4 (1.8)	5.9 (1.7)	18.6 (2.5)	29.8 (-0.6)	15.1 (-1.8)	2.6 (-1.3)	4.4 (-0.8)
	理系	515	3.9 (-1.9)	9.2 (-0.6)	7.2 (-0.8)	9.4 (0.8)	20.4 (3.3)	31.5 (0.9)	10.7 (-2.2)	3.3 (0.4)	4.4 (0.2)
	国公立	184	6.3 (-1.5)	11.4 (5.2)	5.0 (-8.3)	9.9 (1.1)	19.5 (0.7)	35.2 (11.3)	7.5 (-6.0)	2.0 (-1.2)	3.3 (-1.4)
	私立	331	2.5 (-2.3)	7.9 (-3.5)	8.4 (2.9)	9.2 (0.6)	20.9 (4.5)	29.4 (-4.3)	12.5 (-0.2)	4.1 (1.3)	5.1 (1.0)
	大学院生	191	3.1 (-0.9)	8.9 (-3.9)	6.8 (-3.3)	5.8 (3.1)	18.8 (7.4)	38.2 (-9.8)	8.9 (2.1)	4.2 (2.8)	5.2 (2.5)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに選択率が最も多い区分を**赤太字**にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色で網掛けした。

⑥就職活動の開始時期、終了時期、実施期間

就職活動の終了時期は、大学生・大学院生ともに「大学4年/大学院2年の6月頃」の割合が最も高い。属性別にみると、理系大学生よりも文系大学生のほうが「大学4年/大学院2年の10～3月頃」の割合が高い。

2019年調査と比べると、大学生では大きな違いはみられないが、大学院生では「大学院2年の6月頃」の割合が大きく減少しており、「大学院1年の3月以前」と「大学院2年の10～3月頃」が増加している。（図表10）

図表10 就職活動の終了時期（単一回答、単位=%）

	n=	大学3年/ 大学院1年 の3月以前	大学4年／大学院2年							活動継続中
			4月頃	5月頃	6月頃	7月頃	8月頃	9月頃	10～3月頃	
大学生	1,625	9.7 (2.2)	6.4 (1.2)	11.6 (1.7)	20.2 (-1.3)	11.9 (-0.2)	8.8 (-1.3)	6.3 (0.7)	17.6 (-1.7)	7.6 (-1.2)
文系	1,085	8.7 (1.9)	4.5 (0.2)	9.5 (0.4)	21.4 (-1.0)	12.6 (-0.8)	9.5 (0.5)	6.5 (0.5)	19.7 (-1.6)	7.5 (0.1)
国公立	133	10.5 (3.0)	6.7 (2.1)	6.3 (-4.3)	22.1 (-9.5)	12.8 (6.4)	10.7 (-2.9)	5.0 (-0.3)	20.5 (6.0)	5.4 (-0.5)
私立	951	8.5 (1.7)	4.2 (-0.1)	10.0 (1.1)	21.3 (0.1)	12.6 (-1.8)	9.4 (0.9)	6.7 (0.6)	19.5 (-2.6)	7.8 (0.2)
理系	540	11.7 (2.8)	10.3 (3.2)	15.7 (4.1)	17.7 (-1.9)	10.4 (1.0)	7.4 (-4.7)	5.7 (1.2)	13.3 (-1.9)	7.8 (-3.9)
国公立	195	13.9 (5.2)	10.4 (5.8)	16.7 (6.7)	20.4 (1.2)	8.0 (-0.7)	5.9 (-8.4)	4.3 (1.7)	11.4 (-3.7)	9.0 (-7.6)
私立	346	10.4 (1.5)	10.2 (2.0)	15.1 (2.9)	16.1 (-3.7)	11.7 (2.1)	8.3 (-2.9)	6.5 (1.2)	14.4 (-0.8)	7.1 (-2.3)
大学院生	201	13.4 (4.9)	12.9 (-1.4)	14.9 (2.5)	24.4 (-11.6)	7.0 (-0.2)	7.0 (-0.2)	3.0 (1.0)	11.9 (3.4)	5.5 (1.6)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに選択率が最も多い区分を**赤太字**にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、10ポイント以上低いセルを濃い青色■で網掛けした。

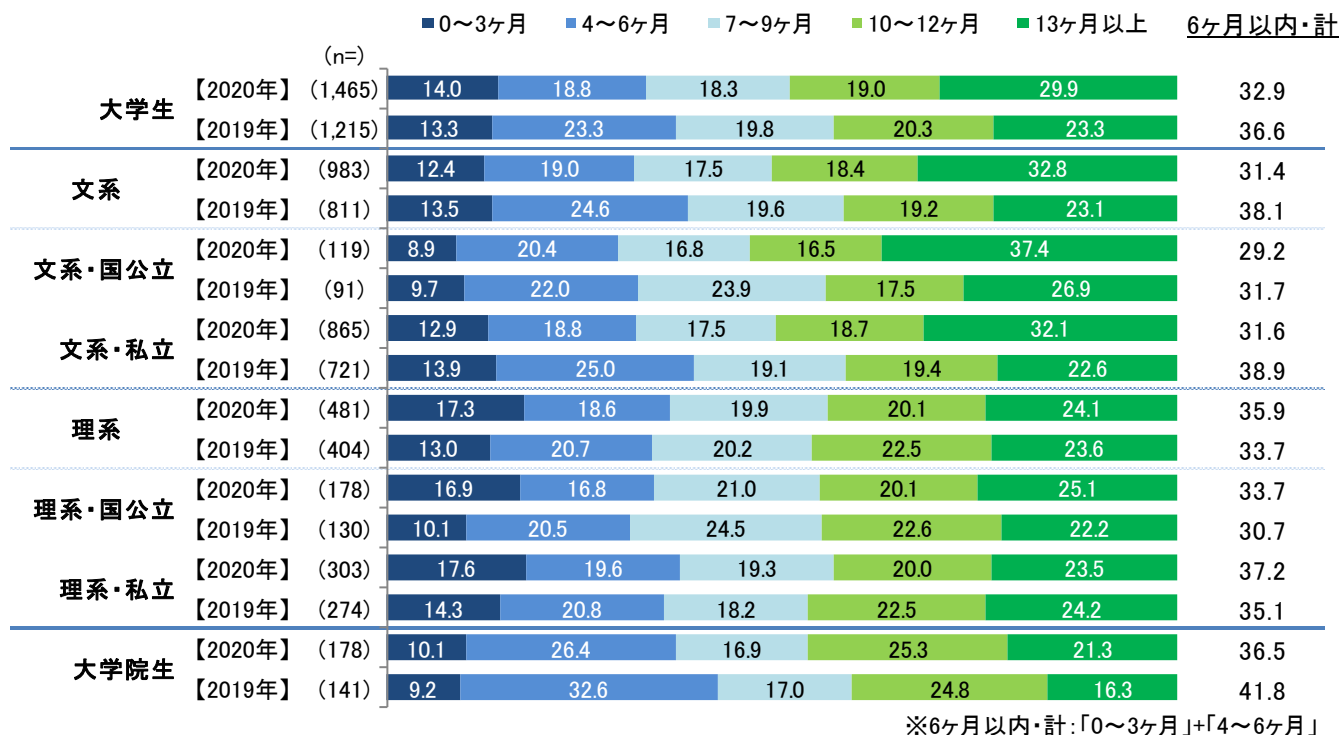
⑥就職活動の開始時期、終了時期、実施期間

就職活動の進め方やノウハウに関する情報収集の開始時期から就職活動の終了時期までの実施期間は、大学生は3割前半、大学院生は3割半ばが6ヶ月以内となっている。2019年調査と比べると、大学生・大学院生ともに6ヶ月以内の割合が減少している。(図表11)

プレエントリー、企業説明会、面接など対面選考の開始時期から就職活動の終了時期までの実施期間は、大学生・大学院生ともに「0～3ヶ月」の割合が最も高い。(図表12)

図表11 就職活動の実施期間(単一回答、単位=%)

* 就職活動の進め方やノウハウに関する情報収集の開始月から就職活動の終了月。
3月下旬時点の活動継続者は端数を切り上げ4月1日まで活動したとみなして算出。



図表12 就職活動の実施期間(単一回答、単位=%)

* 各就職活動の情報収集開始月から終了月。
3月下旬時点の活動継続者は端数を切り上げ4月1日まで活動したとみなして算出。

n=			0～3ヶ月	4～6ヶ月	7～9ヶ月	10～12ヶ月	13ヶ月以上
エ ン ト リ ー	大学生	1,426	32.8 (4.3)	30.5 (-1.2)	15.0 (-1.7)	9.2 (-3.2)	12.5 (1.8)
	大学院生	175	41.1 (-8.5)	32.6 (6.3)	10.3 (-0.4)	8.0 (0.9)	8.0 (1.6)
企 業 説 明 会	大学生	1,482	34.1 (4.4)	29.6 (-0.9)	15.3 (-0.8)	8.1 (-4.3)	12.8 (1.6)
	大学院生	178	47.8 (1.3)	29.2 (3.5)	8.4 (-3.0)	6.7 (-2.5)	7.9 (0.7)
n=			0～2ヶ月	3～4ヶ月	5～6ヶ月	7～9ヶ月	10ヶ月以上
対 面 選 考 の 面 接 な ど	大学生	1,487	31.8 (5.2)	23.5 (-3.1)	16.4 (-0.1)	12.3 (-0.8)	16.0 (-1.2)
	大学院生	182	39.0 (4.0)	26.4 (-1.5)	14.8 (-0.2)	6.6 (-4.8)	13.2 (2.5)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色で網掛けした。

⑦就職活動の各プロセスの活動量

大学生の就職活動の各プロセスにおける活動量は、プレエントリー21.2社、企業説明会参加14.0社、書類選考10.3社、面接など対面選考7.4社。プレエントリー社数がやや減少。

各活動の対象企業・団体数の平均値は、大学生ではプレエントリー21.2社、企業説明会14.0社、書類選考10.3社、面接など対面選考7.4社、最終面接3.2社、内定取得2.2社。属性別にみると、理系大学生よりも文系大学生でプレエントリー、企業説明会、面接など対面選考の社数が多い。

2019年調査と比較すると、大学生のプレエントリー社数がやや減少している。大学院生のプレエントリー社数もわずかに減少している。

プレエントリーした企業のうち、就職活動開始前から知っていた企業は、大学生・大学院生ともに10社強となっており、大学生・大学院生で違いはみられない。(図表13)

図表13 就職活動の各プロセスにおける対象企業・団体数の平均値(数値回答、単位=社) ※0社回答を除く

	プレエントリーした	プレエントリーしたうち、就職活動開始前から知っていた	企業説明会に参加した	書類選考を受けた	面接などの対面選考を受けた	最終面接を受けた	内定(内々定)を取得した
大学生	21.2 (-2.2)	11.7 (-0.8)	14.0 (-0.5)	10.3 (-0.6)	7.4 (-0.4)	3.2 (0.0)	2.2 (0.0)
文系	22.7 (-4.8)	12.7 (-2.0)	15.2 (-1.2)	11.0 (-1.6)	8.0 (-0.9)	3.2 (-0.1)	2.3 (0.0)
国公立	19.7 (-3.8)	12.2 (-1.7)	12.6 (-3.3)	10.8 (-1.1)	7.7 (-0.5)	3.3 (-0.2)	2.3 (-0.1)
私立	23.1 (-4.9)	12.8 (-2.0)	15.5 (-0.9)	11.0 (-1.6)	8.1 (-0.9)	3.2 (-0.1)	2.2 (0.0)
理系	18.0 (3.2)	9.5 (1.6)	11.4 (0.7)	8.8 (1.3)	6.1 (0.6)	3.0 (0.3)	2.2 (0.0)
国公立	21.0 (7.1)	9.4 (1.5)	12.4 (3.2)	10.1 (3.6)	7.1 (2.2)	3.3 (0.7)	2.3 (0.1)
私立	16.3 (1.0)	9.6 (1.6)	10.9 (-0.6)	8.1 (0.1)	5.6 (-0.2)	2.9 (0.1)	2.2 (-0.0)
北海道・東北	23.8 (4.6)	9.3 (-0.1)	12.1 (-0.6)	8.1 (0.7)	6.3 (1.1)	3.2 (0.2)	2.1 (-0.1)
関東	21.6 (-3.6)	12.3 (-1.3)	14.3 (-0.9)	10.9 (-1.5)	7.8 (-1.1)	3.2 (-0.1)	2.4 (0.0)
中部	21.8 (2.9)	13.2 (3.3)	13.7 (1.2)	10.1 (1.5)	6.5 (0.5)	2.9 (0.0)	2.1 (-0.1)
近畿	22.5 (-1.4)	12.3 (-0.5)	15.3 (-1.5)	11.3 (-1.7)	8.5 (-0.9)	3.5 (0.1)	2.4 (0.2)
中国・四国	15.0 (-1.0)	8.5 (-0.5)	13.3 (2.9)	9.9 (0.8)	7.5 (1.7)	2.7 (0.3)	2.0 (0.1)
九州	15.1 (-21.4)	8.7 (-12.5)	11.0 (-4.4)	6.9 (-1.7)	5.1 (-1.5)	2.8 (-0.0)	1.9 (-0.3)
大学院生	18.1 (-1.2)	11.0 (-2.0)	11.9 (-2.7)	10.7 (-1.8)	7.2 (-0.7)	2.7 (-0.0)	1.9 (-0.1)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。

* 各活動の文理別/文理×国公立別/地域別で、最も対象企業・団体数の平均値が多いスコアに下線を引いた。

* 2019年とのスコア差が5ポイント以上高いセルを薄い橙色、5ポイント以上低いセルを薄い青色で網掛けした。

⑦就職活動の各プロセスの活動量

※回答者数(単位=人)

	プレエントリー した	プレエントリー したうち、就職 活動開始前か ら知っていた	企業説明会に 参加した	書類選考を 受けた	面接などの 対面選考を 受けた	最終面接を 受けた	内定(内々定) を取得した
大学生	1,503	1,350	1,564	1,545	1,571	1,526	1,484
文系	1,012	927	1,050	1,043	1,050	1,023	998
国公立	120	112	124	127	128	121	120
私立	893	814	926	917	922	902	878
理系	490	423	514	502	521	503	486
国公立	183	161	184	181	185	174	168
私立	307	262	330	321	336	330	319
北海道・東北	123	113	127	125	131	131	131
関東	574	510	593	586	590	570	553
中部	278	241	298	290	301	294	278
近畿	338	309	349	346	349	333	326
中国・四国	95	87	100	102	103	103	101
九州	95	88	97	94	96	96	94
大学院生	188	181	191	194	194	189	188

⑦就職活動の各プロセスの活動量

大学生の就職活動の各プロセスの対象企業・団体数の分布を属性別にみると、プレエントリー社数および企業説明会への参加社数は、文系大学生はそれぞれ、「20～49社」「10～19社」の割合が最も高い。理系大学生はそれぞれ「1～4社」の割合が最も高い。書類選考を受けた社数は、文系大学生、理系大学生ともに同じく「1～4社」の割合が最も高い。

2019年調査と比べると、国公立大学の文系大学生においてプレエントリー社数「0社」の学生が増加した。(図表14)

図表14 就職活動の各プロセスにおける対象企業・団体数の分布(数値回答、単位=%)

		n=	20社未満				20～49社	50～99社	100社以上
			0社	1～4社	5～9社	10～19社			
(資料・採用情報の請求)	大学生	1,625	7.5 (0.2)	23.4 (2.3)	12.2 (-0.8)	18.8 (-0.6)	26.2 (0.1)	8.9 (-0.8)	2.9 (-0.4)
	文系	1,085	6.6 (0.6)	20.5 (2.2)	10.6 (-1.7)	18.6 (0.6)	29.8 (1.7)	10.4 (-1.9)	3.3 (-1.3)
	国公立	133	10.1 (5.4)	19.1 (-1.1)	12.0 (4.0)	24.8 (-0.6)	23.4 (-5.2)	8.6 (-1.2)	2.0 (-1.2)
	私立	951	6.2 (-0.1)	20.7 (2.6)	10.4 (-2.5)	17.8 (0.7)	30.7 (2.6)	10.7 (-2.0)	3.5 (-1.4)
	理系	540	9.3 (-0.6)	29.1 (2.5)	15.4 (1.1)	19.2 (-2.9)	19.0 (-3.1)	5.8 (1.4)	2.2 (1.6)
	国公立	195	6.2 (-4.4)	32.6 (1.9)	10.3 (-1.4)	24.1 (3.3)	19.8 (-2.5)	4.9 (1.4)	2.2 (1.6)
	私立	346	11.1 (1.4)	27.2 (2.4)	18.2 (2.9)	16.4 (-6.3)	18.6 (-3.5)	6.3 (1.5)	2.2 (1.7)
	大学院生	201	6.5 (3.2)	19.4 (1.8)	14.4 (0.0)	22.4 (0.2)	29.9 (-4.1)	5.5 (-1.7)	2.0 (0.7)
企業説明会に参加した	大学生	1,625	3.8 (-0.2)	25.4 (2.4)	15.7 (-4.2)	26.8 (3.5)	24.0 (-0.8)	3.8 (-0.9)	0.5 (0.2)
	文系	1,085	3.2 (-1.0)	22.9 (4.0)	14.2 (-4.1)	27.5 (3.5)	27.2 (-0.7)	4.5 (-1.7)	0.5 (0.1)
	国公立	133	7.3 (2.3)	22.9 (7.5)	17.3 (-0.1)	29.8 (3.6)	20.2 (-9.8)	2.0 (-4.1)	0.5 (0.5)
	私立	951	2.7 (-1.5)	22.8 (3.5)	13.7 (-4.6)	27.2 (3.4)	28.2 (0.5)	4.9 (-1.4)	0.5 (0.0)
	理系	540	4.8 (1.5)	30.7 (-0.9)	18.7 (-4.3)	25.5 (3.6)	17.5 (-1.0)	2.4 (0.7)	0.4 (0.4)
	国公立	195	5.6 (4.0)	37.1 (-0.9)	9.7 (-15.5)	22.9 (3.6)	21.4 (7.5)	2.2 (0.1)	1.2 (1.2)
	私立	346	4.4 (0.3)	27.0 (-1.6)	23.8 (1.7)	26.9 (3.9)	15.3 (-5.2)	2.5 (0.9)	- (-)
	大学院生	201	5.0 (1.1)	25.9 (5.6)	22.9 (1.3)	23.4 (-0.8)	20.4 (-4.4)	2.0 (-2.6)	0.5 (-0.2)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに最も多い区分を**赤太字**にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、10ポイント以上低いセルを濃い青色■で網掛けした。

⑦就職活動の各プロセスの活動量

※前ページより続き

		n=	20社未満				20～49社	50～99社	100社以上
			0社	1～4社	5～9社	10～19社			
書類選考を受けた	大学生	1,625	4.9 (0.2)	33.8 (-0.0)	19.8 (0.1)	25.1 (2.6)	14.5 (-2.4)	1.8 (-0.5)	0.0 (-0.0)
	文系	1,085	3.8 (-1.0)	31.1 (3.5)	19.0 (0.2)	26.8 (2.1)	17.6 (-3.4)	1.6 (-1.4)	0.1 (-0.0)
	国公立	133	5.0 (2.4)	30.8 (0.1)	19.1 (-4.4)	30.0 (7.4)	12.4 (-5.1)	2.6 (-0.3)	- (-)
	私立	951	3.6 (-1.4)	31.2 (3.9)	19.0 (0.9)	26.3 (1.3)	18.3 (-3.1)	1.5 (-1.5)	0.1 (-0.0)
	理系	540	7.2 (2.7)	39.1 (-7.1)	21.5 (-0.2)	21.7 (3.5)	8.3 (-0.3)	2.3 (1.4)	- (-)
	国公立	195	7.2 (0.6)	38.9 (-13.4)	17.3 (-2.2)	21.8 (5.4)	10.5 (5.8)	4.3 (3.8)	- (-)
	私立	346	7.2 (3.6)	39.2 (-4.2)	23.8 (1.2)	21.7 (2.7)	7.0 (-3.4)	1.1 (0.1)	- (-)
	大学院生	201	3.5 (1.5)	30.8 (1.4)	24.4 (0.8)	23.9 (2.3)	15.9 (-3.0)	1.5 (-3.1)	- (-)
面接などの対面選考を受けた	大学生	1,625	3.4 (-1.1)	41.1 (0.4)	26.5 (2.0)	20.9 (-0.3)	8.1 (-0.9)	0.1 (-0.1)	0.0 (-0.0)
	文系	1,085	3.2 (-1.6)	36.4 (2.3)	26.1 (1.4)	25.1 (0.6)	9.0 (-2.5)	0.2 (-0.1)	0.0 (-0.1)
	国公立	133	4.3 (0.8)	36.7 (0.7)	28.5 (-0.7)	21.7 (-1.5)	8.3 (0.2)	0.2 (0.2)	0.2 (0.2)
	私立	951	3.0 (-2.0)	36.3 (2.5)	25.8 (1.7)	25.6 (0.9)	9.1 (-2.9)	0.2 (-0.1)	- (-0.1)
	理系	540	3.7 (-0.0)	50.4 (-3.4)	27.3 (3.1)	12.3 (-2.2)	6.3 (2.5)	- (-)	- (-)
	国公立	195	5.2 (1.7)	50.1 (-9.5)	20.6 (-3.0)	14.2 (4.5)	9.9 (6.3)	- (-)	- (-)
	私立	346	2.8 (-1.0)	50.6 (-0.6)	31.1 (6.5)	11.2 (-5.4)	4.3 (0.4)	- (-)	- (-)
	大学院生	201	3.5 (1.5)	42.3 (0.5)	26.9 (2.7)	19.4 (-2.8)	7.5 (-1.7)	0.5 (-0.2)	- (-)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに最も多い区分を赤太字にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色で網掛けした。

⑦就職活動の各プロセスの活動量

※前ページより続き

		n=	20社未満				20～49社	50～99社	100社以上
			0社	1～4社	5～9社	10～19社			
最終面接を受けた	大学生	1,625	6.1 (-1.9)	72.0 (0.4)	18.6 (1.9)	3.1 (-0.3)	0.2 (-0.1)	- (-)	- (-)
	文系	1,085	5.7 (-1.8)	71.1 (1.7)	19.9 (1.4)	3.1 (-1.1)	0.2 (-0.2)	- (-)	- (-)
	国公立	133	9.3 (1.2)	69.4 (-1.3)	17.9 (2.1)	2.6 (-2.8)	0.9 (0.9)	- (-)	- (-)
	私立	951	5.2 (-2.2)	71.3 (2.1)	20.2 (1.3)	3.2 (-0.9)	0.1 (-0.3)	- (-)	- (-)
	理系	540	6.9 (-2.1)	74.0 (-2.4)	15.9 (3.0)	3.1 (1.4)	0.1 (0.1)	- (-)	- (-)
	国公立	195	10.8 (2.8)	64.0 (-13.4)	19.6 (5.6)	5.2 (4.7)	0.3 (0.3)	- (-)	- (-)
	私立	346	4.6 (-4.8)	79.6 (3.8)	13.8 (1.3)	2.0 (-0.3)	- (-)	- (-)	- (-)
	大学院生	201	6.0 (3.4)	79.1 (-3.9)	14.4 (2.0)	0.5 (-1.5)	- (-)	- (-)	- (-)

		n=	0社	1社	2社	3社	4社	5社以上
内定（内々定）を取得した	大学生	1,625	8.7 (-0.0)	38.1 (3.5)	24.4 (-1.1)	13.8 (-3.1)	6.3 (-2.4)	8.8 (3.1)
	文系	1,085	8.0 (0.8)	37.1 (4.2)	24.2 (-3.9)	16.1 (-1.6)	5.8 (-2.7)	8.7 (3.2)
	国公立	133	10.2 (5.3)	37.9 (9.6)	21.4 (-7.8)	11.4 (-7.1)	7.8 (-3.5)	11.3 (3.5)
	私立	951	7.7 (0.2)	37.0 (3.5)	24.6 (-3.3)	16.8 (-0.9)	5.6 (-2.6)	8.3 (3.2)
	理系	540	10.0 (-1.7)	40.1 (2.2)	24.6 (4.5)	9.1 (-6.1)	7.3 (-1.6)	8.8 (2.8)
	国公立	195	14.0 (0.3)	36.9 (2.8)	21.9 (-2.6)	9.3 (-3.4)	7.4 (-4.1)	10.6 (7.0)
	私立	346	7.8 (-3.0)	41.9 (2.4)	26.2 (7.9)	9.0 (-7.4)	7.2 (-0.5)	7.9 (0.7)
	大学院生	201	6.5 (2.5)	47.3 (2.2)	22.9 (-3.9)	13.9 (0.9)	5.5 (-1.7)	4.0 (0.1)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに最も多い区分を赤太字にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色で網掛けした。

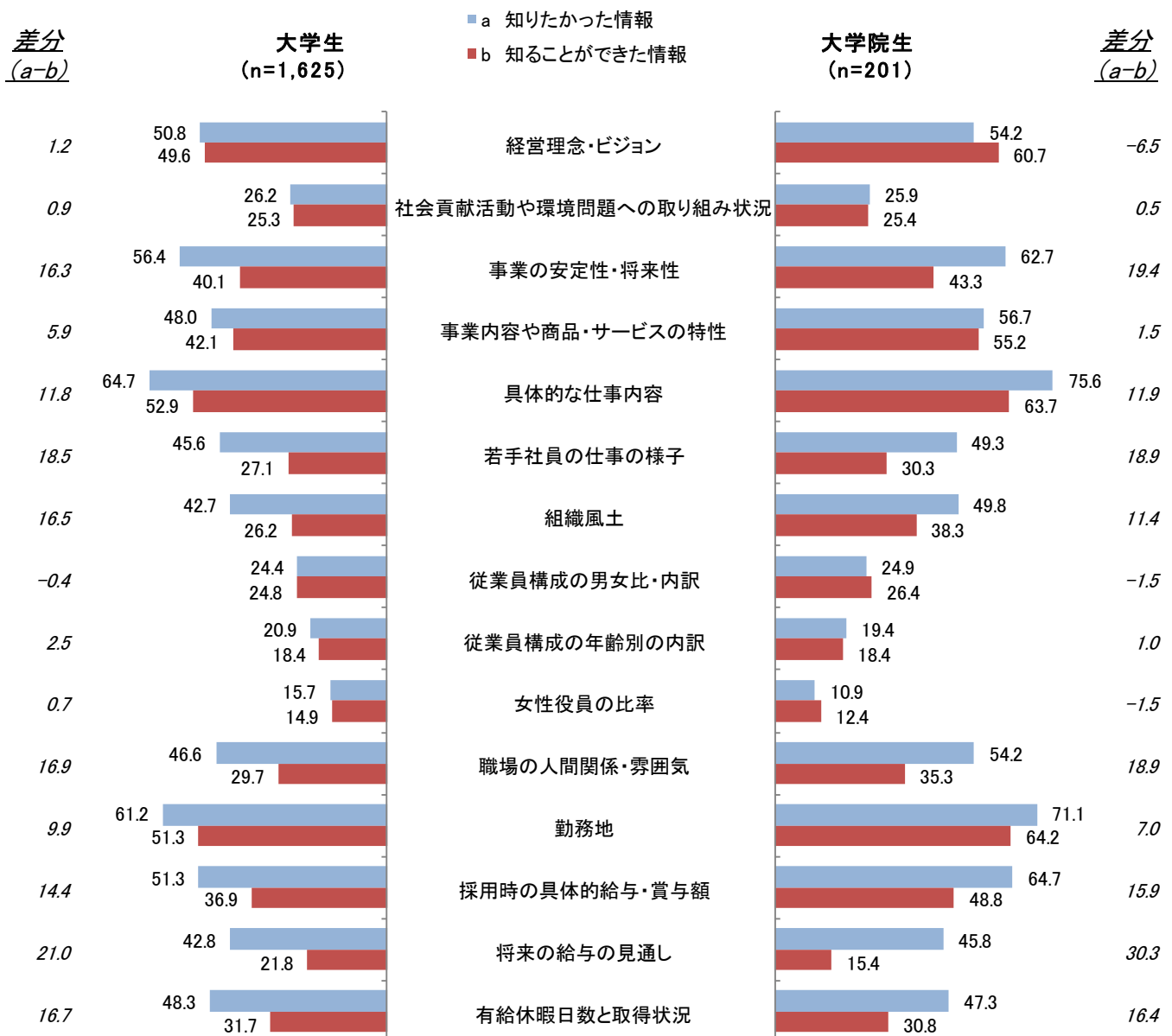
⑧ 知りたかった情報、知ることができた情報

大学生が就職活動中に知りたかった情報は「具体的な仕事内容」「勤務地」「事業の安定性・将来性」の順に高く、知ることができた情報との差が大きいのは「将来の給与の見通し」「若手社員の仕事の様子」。

大学生が就職活動中に知りたかった情報は、「具体的な仕事内容」「勤務地」「事業の安定性・将来性」の順に高い。知りたかった情報と知ることができた情報の差は、「将来の給与の見通し」「若手社員の仕事の様子」「職場の人間関係・雰囲気」「有給休暇人数と取得状況」の順に大きい。

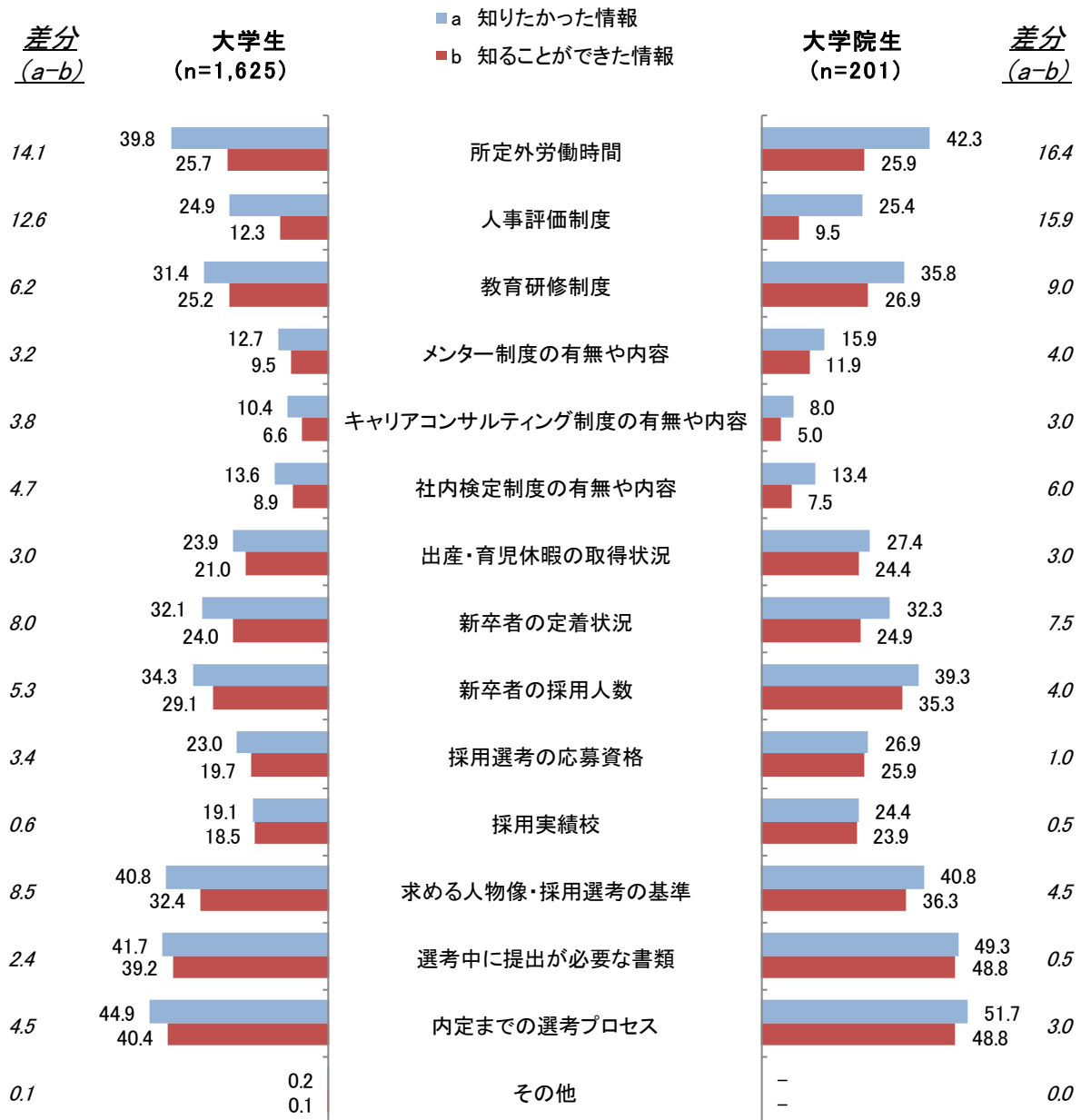
大学院生が就職活動中に知りたかった情報は、「具体的な仕事内容」「勤務地」「採用時の具体的給与・賞与額」の順に高い。知りたかった情報と知ることができた情報の差は、「将来の給与の見通し」「事業の安定性・将来性」「若手社員の仕事の様子」「職場の人間関係・雰囲気」の順に大きい。(図表15)

図表15 就職活動中に知りたかった情報、知ることができた情報(複数回答、単位=%)



⑧ 知りたかった情報、知ることができた情報

※前ページより続き

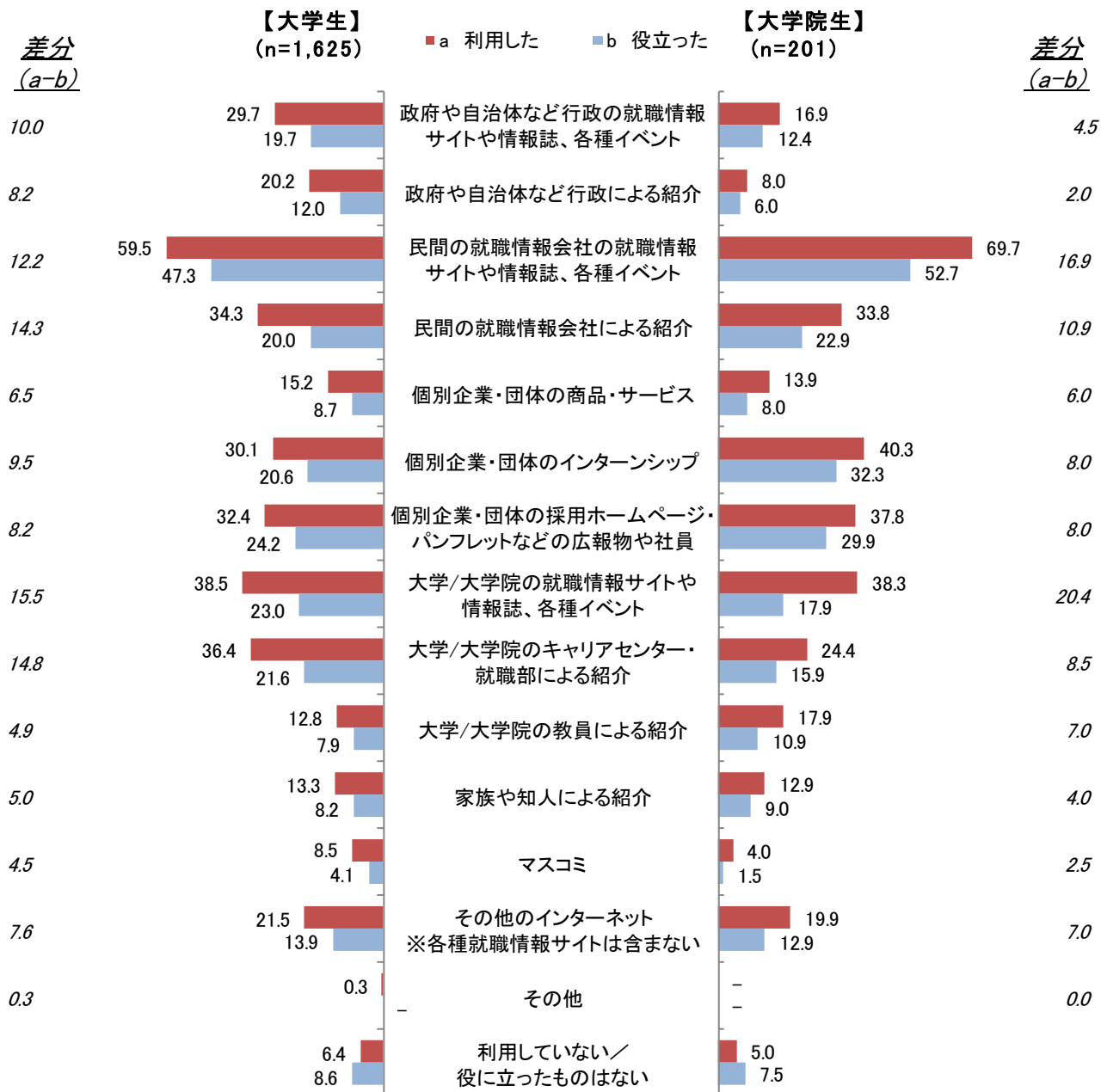


⑨就職予定先に関する情報源

企業・団体等を選ぶときの情報源は、大学生・大学院生ともに「民間の就職情報会社の就職情報サイトや情報誌、各種イベント」の割合が最も高い。

企業・団体等を選ぶときの情報源として利用したものは、大学生・大学院生ともに、「民間の就職情報会社の就職情報サイトや情報誌、各種イベント」の割合が最も高い。大学生が利用した割合が2番目に高いのは、「大学/大学院の就職情報サイトや情報誌、各種イベント」であった。大学院生が利用した割合が2番目に高いのは、「個別企業・団体のインターンシップ」であった。(図表16)

図表16 就職活動を通して、企業・団体等を選ぶ時の情報源(単位=%)



⑨就職予定先に関する情報源

最終的な就職先の認知経路は、大学生・大学院生ともに「民間の就職情報会社の就職情報サイトや情報誌、各種イベント」の割合が最も高い。2019年調査と比べると、国公立大学の理系大学生で「民間の就職情報会社の就職情報サイトや情報誌、各種イベント」「就職予定先企業・団体の採用HP・パンフレットなどの広報物や社員」「大学のキャリアセンター・就職部による紹介」が大きく増加している。（図表17）

図表17 就職確定者の最終的な就職先の認知経路(複数回答、単位=%)

n=		政府や自治体など行政の就職情報サイトや情報誌、各種イベント	政府や自治体など行政による紹介	民間の就職情報会社の就職情報サイトや情報誌、各種イベント	民間の就職情報会社による紹介	就職予定先企業・団体の商品・サービス	就職予定先企業・団体のインターンシップ	就職予定先企業・団体の採用HP・パンフレットなどの広報物や社員	大学/大学院の就職情報サイトや情報誌、各種イベント
大学生	1,415	13.4 (2.5)	6.0 (-0.1)	43.2 (2.5)	19.2 (2.8)	6.7 (-0.1)	11.0 (2.2)	14.3 (3.4)	18.2 (-0.1)
文系	957	14.9 (4.3)	6.4 (0.1)	43.6 (-0.3)	18.3 (0.6)	7.5 (0.3)	10.3 (2.7)	15.2 (4.9)	17.4 (2.1)
国公立	120	17.7 (4.4)	9.8 (1.9)	45.6 (-5.2)	18.4 (2.2)	7.8 (-3.3)	11.2 (-1.5)	17.6 (1.1)	14.6 (0.1)
私立	837	14.5 (4.2)	5.9 (-0.1)	43.3 (0.3)	18.3 (0.4)	7.4 (0.8)	10.1 (3.2)	14.8 (5.4)	17.8 (2.4)
理系	458	10.2 (-1.3)	5.2 (-0.6)	42.4 (8.8)	21.1 (7.6)	5.0 (-1.1)	12.4 (1.0)	12.6 (0.3)	20.0 (-4.8)
国公立	155	15.5 (1.1)	4.3 (0.4)	47.3 (16.0)	24.7 (6.9)	9.8 (4.4)	16.5 (2.7)	20.5 (11.8)	21.1 (-2.5)
私立	303	7.5 (-2.7)	5.7 (-0.9)	39.8 (5.4)	19.3 (7.6)	2.6 (-3.9)	10.3 (-0.1)	8.6 (-5.2)	19.5 (-5.9)
大学院生	179	11.2 (2.7)	4.5 (0.9)	39.1 (4.4)	19.0 (9.1)	11.2 (-0.2)	11.7 (-1.7)	23.5 (6.4)	24.0 (4.9)

n=		大学/大学院のキャリアセンター・就職部による紹介	大学/大学院の教員による紹介	家族や知人による紹介	マスコミ	その他のインターネット※各種就職情報サイトは含まない	その他	わからない・覚えていない
大学生	1,415	17.9 (2.3)	5.5 (-2.7)	8.7 (0.2)	3.1 (-0.0)	4.9 (0.5)	2.1 (-0.5)	4.6 (-0.4)
文系	957	16.0 (1.1)	3.6 (-2.3)	8.6 (-0.7)	3.5 (0.5)	5.1 (0.6)	1.7 (-1.3)	6.0 (1.3)
国公立	120	13.3 (-6.2)	3.4 (-4.8)	12.2 (-0.9)	4.0 (-0.3)	4.4 (-4.6)	1.9 (-2.7)	5.7 (0.4)
私立	837	16.4 (2.1)	3.6 (-2.0)	8.1 (-0.7)	3.4 (0.7)	5.2 (1.3)	1.7 (-1.1)	6.0 (1.5)
理系	458	21.8 (4.8)	9.4 (-3.8)	8.8 (2.2)	2.3 (-1.2)	4.6 (0.2)	3.1 (1.1)	1.8 (-4.0)
国公立	155	24.7 (16.0)	12.1 (0.7)	12.0 (0.7)	4.7 (-1.5)	7.8 (5.5)	- (-2.1)	2.7 (-0.8)
私立	303	20.4 (-0.2)	8.0 (-5.9)	7.1 (2.6)	1.0 (-1.3)	3.0 (-2.3)	4.6 (2.7)	1.4 (-5.4)
大学院生	179	15.6 (2.9)	12.3 (-4.7)	14.5 (-3.2)	5.6 (-0.8)	5.6 (-0.8)	2.8 (-2.2)	3.4 (-0.9)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。 * 属性ごとに選択率が最も多い区分を**赤太字**にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、10ポイント以上低いセルを濃い青色■で網掛けした。

⑩就職予定先を選ぶ際の重視点

就職予定先を選ぶ際の重視点は、大学生、大学院生ともに「業種」の割合が最も高い。
大学生は「勤務地」「勤務時間・休暇」、大学院生は「専攻などの経験」「職種」の割合も高い。

就職確定者が就職予定先を選ぶ際の重視点は、大学生・大学院生ともに「業種」の割合が最も高い。大学生では「勤務地」「勤務時間・休暇」の割合も高い。大学院生では「職種」「大学院の専攻やこれまでの経験・取得資格を活かせるか」「組織風土・職場の人間関係」の割合も高い。(図表18)

図表18 就職予定先を選ぶときの重視点(複数回答、単位=%)

	大 学 生 (n=)	文 系 (1,085)	国 公 立 (133)	私 立 (951)	理 系 (540)	国 公 立 (195)	私 立 (346)	東 北 海 道 ・ (134)	関 東 (607)	中 部 (312)	近 畿 (359)	四 国 ・ 中 国 (108)	九 州 (105)	大 学 院 生 (201)
業種	46.0	44.4	43.8	44.5	49.3	52.2	47.7	47.5	46.1	47.5	43.8	42.5	50.4	56.2
職制(コース)※1	19.6	20.9	19.3	21.2	17.0	18.7	16.0	16.5	19.6	22.4	22.1	13.9	12.7	17.4
職種※2	30.5	30.7	27.8	31.1	30.1	28.4	31.1	35.3	29.0	29.3	33.9	29.9	26.4	39.3
勤務地	45.1	45.1	48.2	44.6	45.0	44.1	45.6	46.8	45.9	52.6	37.7	49.0	36.9	47.8
雇用形態	23.5	24.5	25.8	24.3	21.5	20.0	22.3	19.9	23.6	27.3	22.8	22.0	20.1	27.4
民間企業・団体か、 それ以外(公務員・教員など)か	10.5	11.1	23.4	9.4	9.4	14.4	6.7	10.4	10.4	11.0	10.5	12.3	8.7	11.9
外資企業・団体か 内資企業・団体か※3	3.8	3.6	4.2	3.5	4.1	5.2	3.5	0.5	3.7	3.4	4.4	4.2	6.7	5.0
大学・大学院の専攻やこれまでの 経験・取得資格を活かせるか	14.0	11.2	10.4	11.3	19.7	16.1	21.7	22.2	12.5	18.1	11.2	16.7	7.1	33.3
従業員規模	6.9	6.2	7.2	6.1	8.4	12.4	6.1	1.6	7.3	7.1	7.5	9.8	5.8	8.5
知名度	10.3	9.9	17.2	8.8	11.0	9.9	11.7	6.6	12.3	10.2	9.1	13.2	4.6	13.9
経営理念・ビジョン	15.3	16.1	16.2	16.1	13.9	15.8	12.8	14.8	16.0	19.2	9.7	20.3	14.8	19.4
事業の安定性・将来性	26.5	26.3	36.3	24.9	26.9	37.4	21.0	27.3	26.4	28.4	24.4	32.4	21.6	30.3
給与水準	32.1	31.7	35.8	31.1	32.9	35.1	31.6	30.2	31.5	34.5	34.8	26.7	26.6	35.8
勤務時間・休暇	37.2	39.4	35.7	39.9	32.9	34.8	31.9	34.0	37.5	41.7	34.7	34.1	38.3	35.3
組織風土・職場の人間関係	25.3	28.1	30.0	27.8	19.7	22.3	18.3	19.9	28.3	23.6	23.5	25.8	25.3	32.3
内定取得の可能性	14.6	14.9	20.3	14.1	14.0	14.0	14.0	18.0	14.6	10.6	15.4	13.2	20.9	16.4
就職活動の負担・手間	9.1	9.0	8.7	9.1	9.1	5.3	11.3	6.2	8.1	10.8	10.6	8.7	8.1	7.5
その他	3.3	2.9	3.3	2.8	4.0	2.8	4.7	1.8	2.3	4.1	2.5	8.6	5.7	2.0

※1: 例) 総合職、一般職、地域・職域限定職など

※2: 例) 営業職、企画職、事務職、技術職など

※3: 外資＝日本国外に本社がある企業・団体、内資＝日本国内に本社がある企業・団体

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色■、10ポイント以上低いセルを濃い青色■、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色■で網掛けした。

⑪在学中に実施したこと

**在学中に実施した活動は、大学生で「アルバイト」、大学院生で「修論」の割合が最も高い。
大学生・大学院生ともに「趣味など、自分の興味がある分野の活動」の割合が増加。**

在学中に実施していた活動は、大学生は「アルバイト」、大学院生は「修論」が最も高い。また、大学生において文系・理系の間の割合の差は、「卒論、卒業研究、修論」、「海外留学」、「英語などの外国語学習」の順に大きい。

2019年調査と比べると、大学生・大学院生ともに「趣味など、自分の興味がある分野の活動」などの割合が増加した。また大学院生では、「インターンシップ」の割合も増加した。(図表19)

図表19 在学中に実施した活動(複数回答、単位=%)

	大 学 生 (n=)	文 系 (1,085)	国 立 (133)	私 立 (951)	理 系 (540)	国 立 (195)	私 立 (346)	東 北 海 道 (134)	関 東 (607)	中 部 (312)	近 畿 (359)	四 国 ・ 中 国 (108)	九 州 (105)	大 学 院 生 (201)
海外留学	14.1 (3.7)	17.2 (4.3)	19.8 (6.0)	16.8 (4.0)	7.8 (2.6)	11.6 (3.8)	5.7 (1.7)	13.6 (8.5)	13.5 (3.8)	14.4 (1.6)	17.2 (4.5)	10.1 (0.8)	10.5 (2.4)	15.4 (1.0)
サークル活動	34.1 (-0.4)	35.4 (2.2)	40.0 (-5.1)	34.7 (3.2)	31.4 (-5.7)	32.9 (-13.4)	30.6 (-2.4)	36.3 (-11.6)	36.0 (2.7)	35.2 (7.2)	32.0 (-2.6)	25.0 (-4.8)	33.0 (-11.8)	43.8 (-2.0)
部活動	20.6 (-1.6)	19.5 (-2.0)	29.2 (0.3)	18.2 (-2.4)	22.7 (-0.7)	31.0 (4.1)	18.0 (-3.8)	24.8 (-5.7)	19.9 (-2.3)	16.3 (0.5)	21.7 (-3.3)	33.8 (10.7)	14.4 (-4.8)	27.9 (1.7)
ボランティア	20.7 (-1.0)	22.6 (1.8)	31.9 (4.3)	21.3 (1.3)	17.0 (-6.5)	18.4 (-5.8)	16.3 (-7.0)	21.8 (-13.7)	19.3 (1.7)	23.5 (-1.2)	20.2 (1.0)	21.8 (0.8)	20.6 (-6.8)	14.9 (2.5)
アルバイト	73.2 (-0.1)	75.1 (2.6)	78.9 (-2.0)	74.6 (3.2)	69.4 (-5.6)	67.1 (-7.0)	70.7 (-4.8)	76.4 (-5.4)	71.8 (0.3)	78.0 (3.9)	70.9 (-3.8)	73.0 (-1.1)	71.1 (5.6)	79.1 (3.9)
インターンシップ	40.3 (1.4)	38.9 (3.0)	45.5 (-1.2)	38.0 (3.5)	43.2 (-1.7)	44.1 (3.8)	42.7 (-4.3)	35.4 (-12.3)	44.4 (7.5)	42.6 (9.5)	35.7 (-5.2)	35.8 (-10.1)	37.0 (-4.1)	53.2 (4.2)
公務員・教員採用試験のための教育・学習活動	13.4 (-0.4)	15.3 (0.7)	25.1 (1.7)	13.9 (0.5)	9.8 (-2.6)	12.0 (1.3)	8.5 (-4.6)	18.3 (5.0)	13.4 (-2.2)	12.3 (-1.6)	15.0 (4.7)	11.3 (-9.4)	7.9 (-0.8)	9.0 (1.1)
英語などの外国語学習	19.4 (3.9)	21.8 (5.8)	25.6 (2.6)	21.3 (6.2)	14.5 (0.2)	19.3 (3.4)	11.9 (-1.8)	11.5 (-1.1)	17.8 (-0.1)	21.8 (10.5)	25.0 (4.6)	16.1 (6.8)	15.4 (7.4)	28.4 (2.2)
趣味など、自分の興味がある分野の活動	45.1 (4.9)	45.4 (3.8)	44.9 (-11.3)	45.5 (5.8)	44.6 (7.2)	40.1 (10.5)	47.1 (6.1)	33.8 (-6.7)	46.2 (4.4)	48.4 (6.4)	46.7 (8.8)	48.8 (8.1)	34.9 (2.3)	47.3 (6.7)
スポーツ関連の活動	9.4 (0.8)	10.2 (2.5)	14.0 (-0.9)	9.7 (2.9)	7.8 (-2.7)	11.7 (0.3)	5.5 (-4.5)	9.5 (0.1)	10.8 (0.2)	5.8 (-1.0)	7.8 (1.2)	14.2 (6.1)	12.5 (4.2)	11.9 (-0.5)
資格取得・検定受験のための学習活動	34.3 (2.9)	34.8 (1.3)	36.3 (-4.7)	34.5 (2.0)	33.5 (6.2)	27.7 (4.5)	36.8 (7.6)	37.2 (12.3)	30.4 (0.4)	37.3 (8.4)	38.9 (-1.7)	35.7 (-2.0)	27.6 (6.2)	29.4 (3.2)
ゼミや研究室での活動	54.2 (2.9)	52.2 (1.8)	65.0 (-6.7)	50.4 (2.8)	58.2 (5.1)	58.0 (10.9)	58.3 (2.5)	58.4 (6.9)	55.0 (4.8)	56.3 (-1.8)	49.4 (-1.3)	61.7 (2.8)	47.0 (13.7)	78.6 (0.8)
授業への出席	62.5 (1.2)	63.2 (1.6)	71.1 (0.8)	62.1 (1.7)	61.1 (0.3)	57.4 (-1.3)	63.2 (1.4)	58.6 (2.7)	63.6 (3.6)	64.4 (-0.0)	61.7 (-1.9)	68.5 (2.8)	51.9 (-4.2)	75.6 (1.1)
卒論、卒業研究、修論	59.2 (3.7)	54.4 (1.6)	64.3 (-2.9)	53.0 (2.1)	68.9 (7.9)	67.0 (6.3)	70.0 (8.9)	55.1 (0.7)	58.3 (8.1)	62.1 (-1.9)	56.3 (-2.8)	76.0 (17.0)	54.2 (4.4)	82.6 (0.2)
あてはまるものはない	3.9 (0.8)	4.0 (0.5)	2.0 (0.2)	4.3 (0.5)	3.7 (1.4)	2.8 (0.6)	4.2 (1.8)	2.7 (-0.0)	3.6 (-0.4)	2.0 (-1.0)	4.5 (1.6)	2.2 (1.2)	12.5 (10.0)	3.0 (1.0)

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。* 属性ごとに最も多い区分を赤太字にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、10ポイント以上低いセルを濃い青色■で網掛けした。

⑫就職活動による各活動への支障状況

就職活動による各活動への支障状況(*)は、大学生で「アルバイト」、大学院生で「大学の授業・研究」の割合が最も高い。大学生で「趣味など、自分の興味がある分野の活動」割合が減少。

就職活動による各活動への支障状況(*)は、大学生では「アルバイト」の割合が最も高い。ついで「大学の授業・研究」「部活動」の順に高い。大学院生では「大学の授業・研究」の割合が最も高い。ついで「アルバイト」「趣味など、自分の興味がある分野の活動」の順に高い。

2019年調査と比べると、大学生では「趣味など、自分の興味がある分野の活動」の割合が大きく減少している。大学院生では、「ボランティア」「海外留学」「スポーツ関連の活動」の割合が大きく減少している。(図表20)

*「支障が生じた」「やや支障が生じた」の回答者を合計

図表20 各活動実施者の就職活動による活動への支障状況(単一回答、単位=%)

	大 学 生			大 学 院 生	▼回答者数(単位＝人)				
		文 系	理 系		大 学 生	文 系	理 系	大 学 院 生	
大学の授業・研究※1	38.0	37.5	39.1	47.8	大学の授業・研究※1	1,625	1,085	540	201
海外留学	25.3 (1.2)	25.3 (3.1)	25.7 (－8.3)	12.9 (－18.9)	海外留学	229	187	42	31
サークル活動	24.0 (－1.8)	24.3 (－3.3)	23.1 (0.8)	13.6 (－6.4)	サークル活動	554	384	170	88
部活動	37.9 (4.7)	37.4 (－2.2)	38.8 (17.3)	17.9 (5.4)	部活動	334	212	123	56
ボランティア	19.5 (－2.6)	16.6 (－6.0)	27.0 (6.1)	6.7 (－24.9)	ボランティア	337	245	92	30
アルバイト	46.0 (－1.7)	46.3 (－3.2)	45.5 (1.2)	42.1 (－2.2)	アルバイト	1,190	815	375	159
インターンシップ	18.3 (2.3)	18.5 (1.2)	17.9 (4.0)	15.0 (5.6)	インターンシップ	655	422	233	107
資格取得・語学習得など 大学外の学習※2	22.3 (－3.9)	21.1 (－5.4)	24.7 (－0.9)	15.9 (－9.1)	資格取得・語学習得など 大学外の学習※2	1,625	1,085	540	201
趣味など、自分の興味がある 分野の活動	31.7 (－10.8)	29.8 (－12.0)	35.4 (－8.5)	35.8 (－9.4)	趣味など、自分の興味がある 分野の活動	733	492	241	95
スポーツ関連の活動	33.5 (－5.3)	26.3 (－10.9)	52.4 (11.4)	16.7 (－25.4)	スポーツ関連の活動	153	111	42	24

※支障が生じた・計:「支障が生じた」+「やや支障が生じた」

※1: 前回は非聴取

※2: 前回は「資格取得・検定受検のための学習活動」で聴取

* カッコ内は2019年とのスコア差を掲載。* 属性ごとに最も多い区分を**赤太字**にした。

* 2019年とのスコア差が10ポイント以上高いセルを濃い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色で網掛けにした。
(回答者数が30未満のスコアを除く) * 回答者数が30未満は青色の文字色にした。

⑬自己分析・企業分析等への自己評価【就職活動を開始した当初】

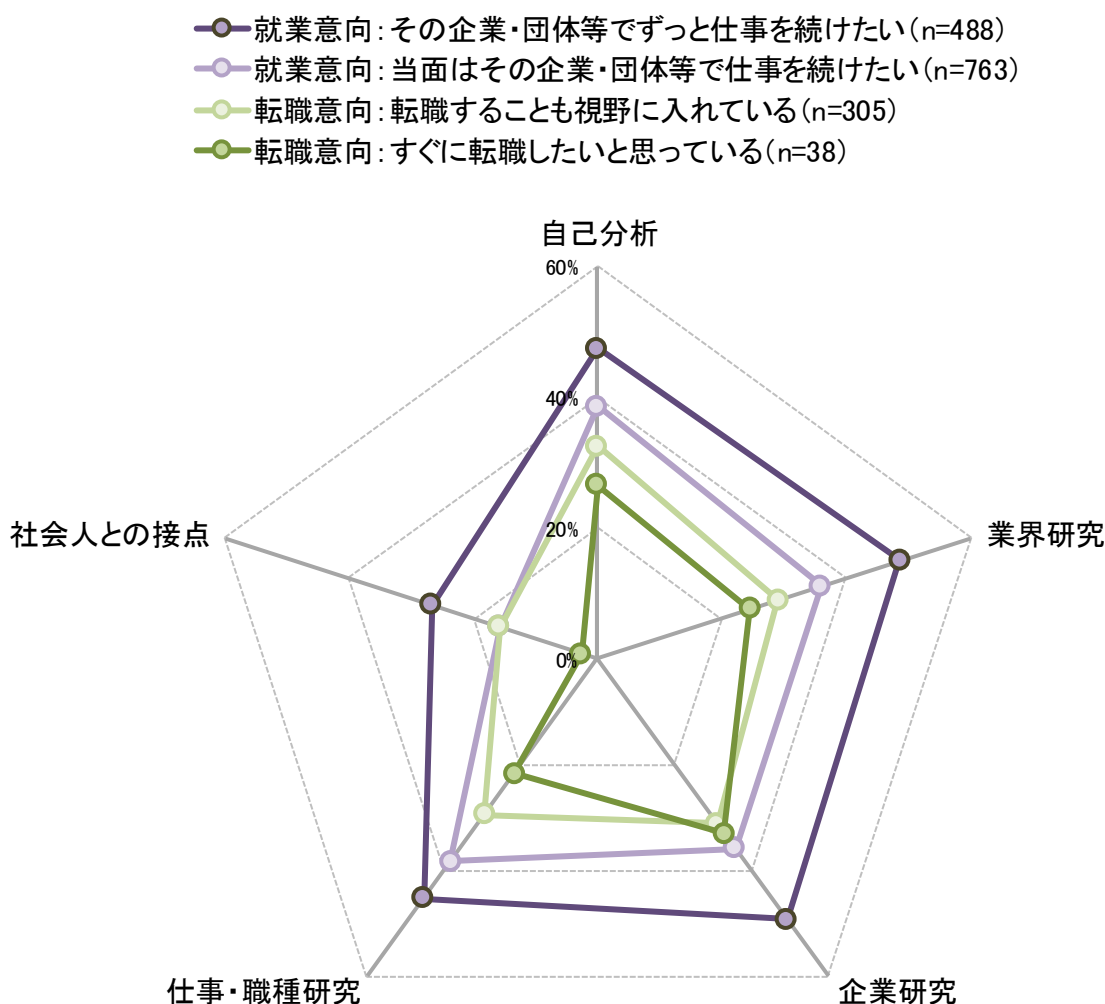
就職予定先に「就業意向」であった学生は、就職活動を開始した当初の「自己分析」「企業分析」等が十分であったと自己評価している傾向がある。

就職予定先に「就業意向」（「その企業・団体等でずっと仕事を続けたい」「当面はその企業・団体等で仕事を続けたい」）であった学生は、就職活動を開始した当初の自己分析・企業分析等について十分（*）であったと自己評価する割合が高い。一方、「転職意向」（「転職することも視野に入れている」「すぐに転職したいと思っている」）であった学生は、就職活動を開始した当初の自己分析・企業分析等について十分であったと自己評価する割合が低く、とくに、「すぐに転職したいと思っている」学生においては、「社会人との接点」について十分だと思っている割合が低い。（図表21-1）

*それぞれの項目について、「十分」「どちらかというと十分」「どちらかというと不十分」「不十分」「やっていない」の単一回答のうち、「十分」「どちらかというと十分」の計

図表21-1 自己分析・企業分析等への自己評価【就職活動を開始した当初】（単一回答、単位=%）

※スコアは十分・計（「十分」+「どちらかというと十分」）



⑬自己分析・企業分析等への自己評価【就職活動を開始した当初】

図表21-2 自己分析・企業分析等への自己評価【就職活動を開始した当初】

※スコアは十分・計(「十分」+「どちらかという十分」)

		自己分析	業界研究	企業研究	仕事・職種研究	社会人との接点
n=						
大学生	1,625	37.8	37.2	37.5	37.2	18.7
文系	1,085	39.5	37.6	38.5	36.6	18.5
国公立	133	37.3	33.7	37.1	33.0	15.8
私立	951	39.8	38.2	38.7	37.2	18.9
理系	540	34.4	36.2	35.5	38.4	18.9
国公立	195	37.7	39.3	41.7	44.2	24.5
私立	346	32.6	34.5	32.0	35.2	15.7
北海道・東北	134	36.0	34.2	32.5	32.7	15.0
関東	607	35.4	41.4	39.3	38.8	17.1
中部	312	36.3	30.7	33.4	33.0	13.0
近畿	359	41.0	38.7	39.9	39.7	24.7
中国・四国	108	44.4	33.9	39.4	33.8	18.3
九州	105	40.3	33.8	36.1	41.8	28.8
大学院生	201	43.8	38.8	39.3	37.3	18.9

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色で網掛けした。

⑭就職予定先に対するイメージ

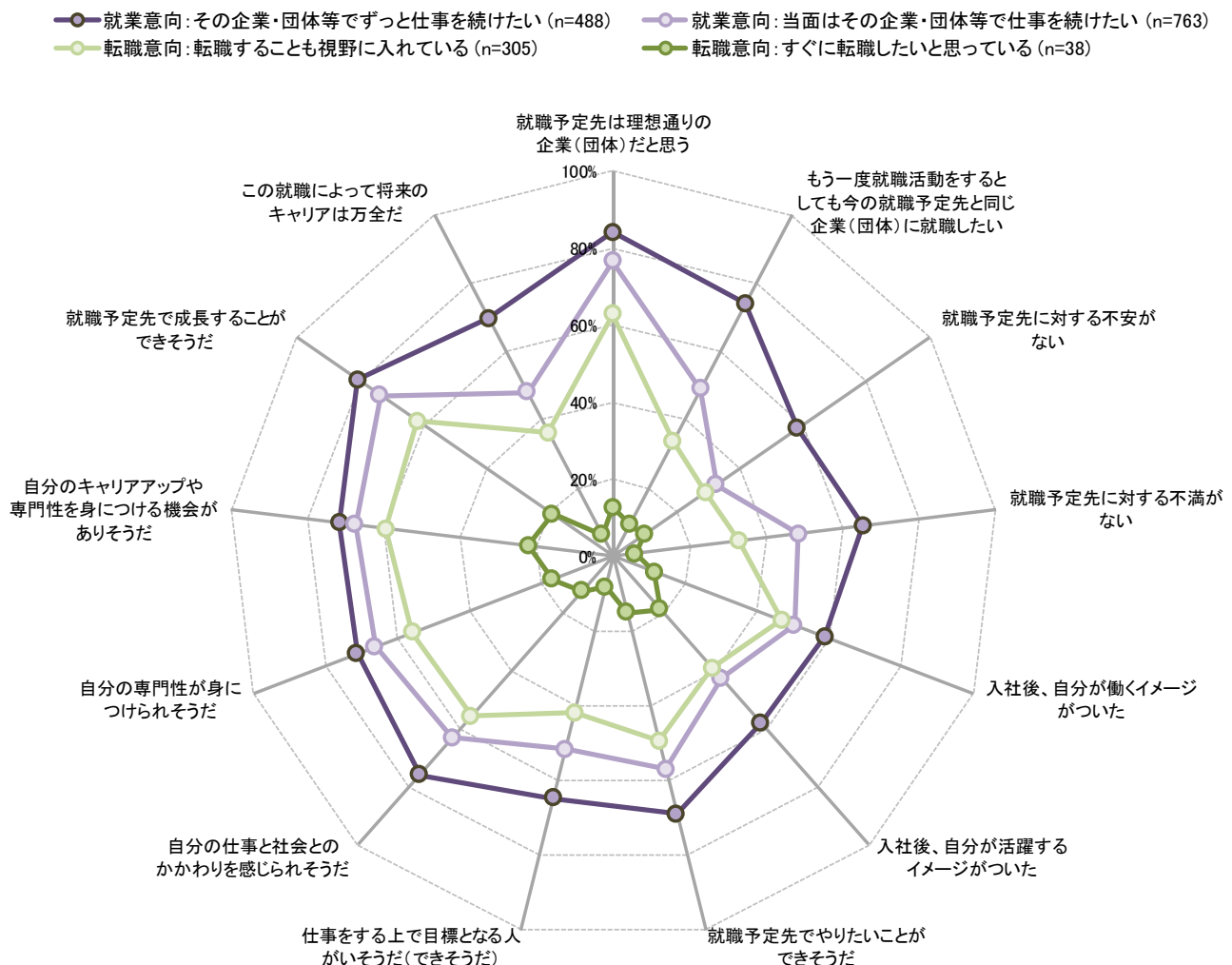
就職予定先に「就業意向」であった学生は、「この就職によって将来のキャリアは万全だ」「もう一度就職活動をするとしても今の就職予定先と同じ企業(団体)に就職したい」等のイメージを持っている。

就職予定先に「就業意向」(「その企業・団体等ですっと仕事を続けたい」「当面はその企業・団体等で仕事を続けたい」)であった学生は、就職予定先のイメージについて「あてはまる・計」(*)の割合が高い。とくに「その企業・団体等ですっと仕事を続けたい」と回答した学生では、「この就職によって将来のキャリアは万全だ」「もう一度就職活動をするとしても今の就職予定先と同じ企業(団体)に就職したい」「就職予定先に対する不安がない」等の項目について、他の学生に比べて「あてはまる・計」(*)の割合がとて高い。
「すぐに転職したいと思っている」と回答した学生ではとくに、「この就職によって将来のキャリアは万全だ」「就職予定先に対する不満がない」について、「あてはまる・計」の割合がとて低い。(図表22-1)

*それぞれの項目について、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」「わからない」の単一回答のうち、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」の計

図表22-1 就職予定先に対するイメージ(単一回答、単位=%)

※スコアはあてはまる・計(「あてはまる」+「どちらかというにあてはまる」)



⑭就職予定先に対するイメージ

図表22-2 就職予定先のイメージ(単一回答、単位=%)

※スコアはあてはまる・計(「あてはまる」+「どちらか」とあてはまる)

	大 学 生 (n=)	文 系 (957)	国 公 立 (120)	私 立 (837)	理 系 (458)	国 公 立 (155)	私 立 (303)	東 北 海 道 ・ 関 東 (128)	関 東 (530)	中 部 (260)	近 畿 (312)	四 国 ・ 中 国 (101)	九 州 (84)	大 学 院 生 (179)
就職予定先は理想通りの企業(団体)だと思う	73.6	71.9	80.0	70.8	77.0	79.3	75.8	74.5	72.3	68.6	77.5	78.2	75.5	84.4
もう一度就職活動をするとしても今の就職予定先と同じ企業(団体)に就職したい	52.0	51.8	49.4	52.1	52.4	48.9	54.2	50.2	54.7	52.9	50.1	49.7	44.2	59.8
就職予定先に対する不安がない	38.1	38.0	32.1	38.8	38.4	39.1	38.0	35.6	40.4	35.3	37.6	39.6	36.4	48.0
就職予定先に対する不満がない	48.4	48.4	46.8	48.7	48.5	53.0	46.1	42.4	48.0	52.0	47.3	57.7	42.4	58.7
入社後、自分が働くイメージがついた	50.9	52.3	45.0	53.4	47.9	58.3	42.6	40.2	49.3	49.8	55.8	61.6	49.6	55.3
入社後、自分が活躍するイメージがついた	46.0	47.8	38.9	49.1	42.3	49.5	38.6	42.1	44.9	42.0	51.3	50.8	46.3	44.7
就職予定先でやりたいことができそう	57.5	58.8	54.7	59.4	54.9	54.9	55.0	55.7	57.6	54.1	62.2	58.1	52.2	63.1
仕事をする上で目標となる人がいそう(できそう)	51.4	51.3	51.1	51.4	51.6	57.6	48.5	47.8	52.3	46.7	52.3	60.4	52.0	63.7
自分の仕事と社会とのかかわりを感じられそう	63.1	64.8	69.6	64.1	59.7	62.5	58.2	66.4	63.1	59.1	63.0	76.1	55.6	74.3
自分の専門性が身につけられそう	62.8	61.9	61.9	61.9	64.5	66.9	63.3	60.0	62.8	64.3	59.2	66.6	70.5	79.3
自分のキャリアアップや専門性を身につける機会がありそう	64.5	64.5	65.4	64.4	64.4	69.7	61.7	67.2	62.5	65.9	62.0	75.6	64.1	79.9
就職予定先で成長することができそう	70.8	71.3	76.0	70.7	69.7	70.7	69.2	75.7	69.3	71.9	68.8	77.7	68.6	83.2
この就職によって将来のキャリアは万全だ	51.3	53.2	48.2	54.0	47.2	58.3	41.5	49.3	49.3	52.6	50.3	59.1	57.3	52.5

* 属性ごとに選取率が最も多い区分を赤太字にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色■、10ポイント以上低いセルを濃い青色■、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色■で網掛けした。

⑮大学・大学院の就職支援で役立った点

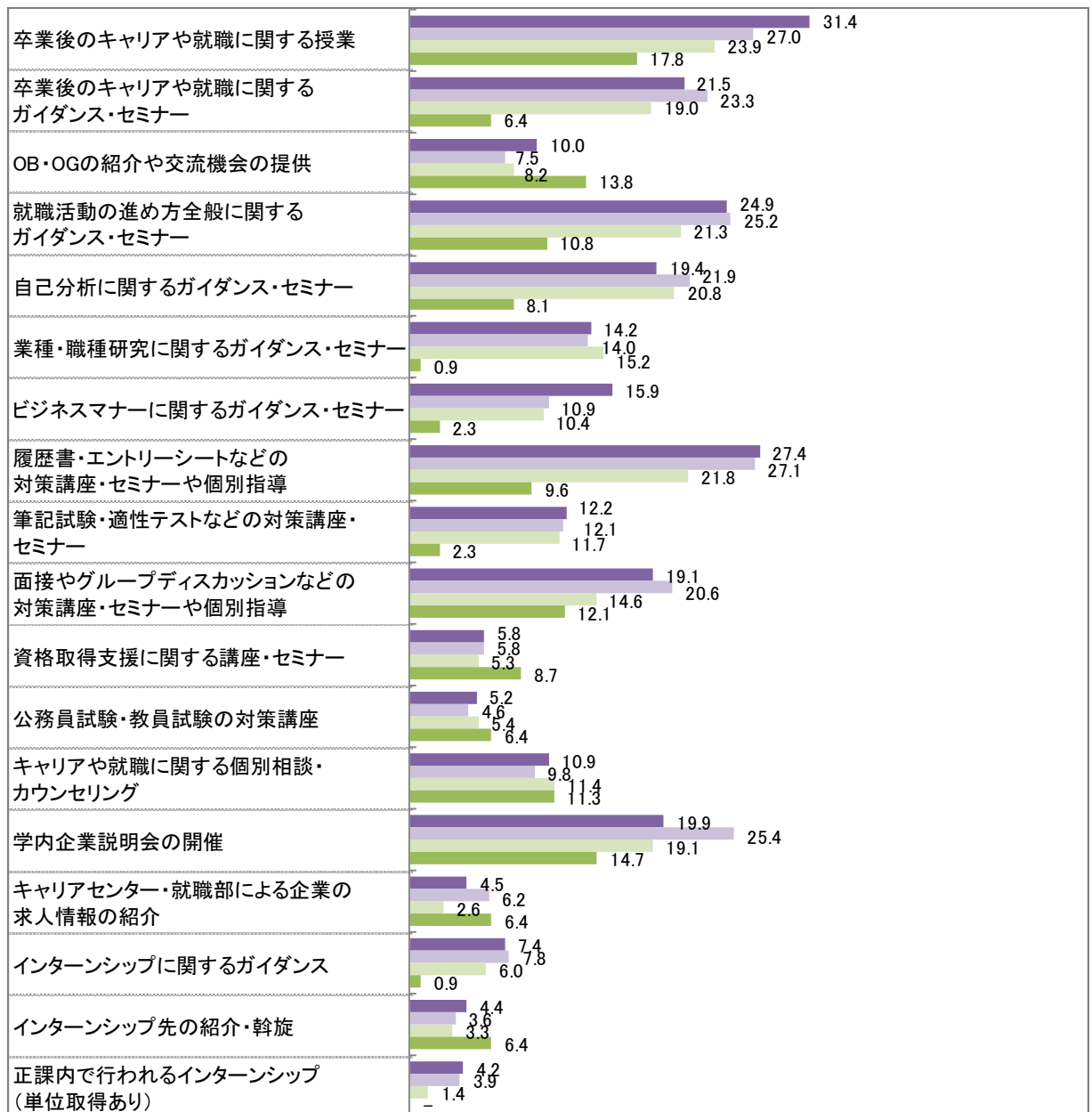
就職予定先に「就業意向」であった学生は、「卒業後のキャリアや就職に関する授業」が役立ったと評価している。とくに「その企業・団体等でずっと仕事を続けたい」学生の評価が高い。

就職予定先に「就業意向」（「その企業・団体等でずっと仕事を続けたい」「当面はその企業・団体等で仕事を続けたい」）であった学生の、大学・大学院の就職支援で役立った点としては、「就職活動の進め方全般に関するガイダンス・セミナー」「履歴書・エントリーシートなどの対策講座・セミナーや個別指導」「面接やグループディスカッションなどの対策講座・セミナーや個別指導」といった就活ノウハウに関する支援だけでなく、「卒業後のキャリアや就職に関する授業」の割合が高い。とくに「その企業・団体等でずっと仕事を続けたい」学生では、「卒業後のキャリアや就職に関する授業」の割合が最も高い。

（図表23-1）

図表23-1 大学・大学院の就職支援で役立った点（複数回答、単位=%）

- 就業意向：その企業・団体等でずっと仕事を続けたい (n=488)
- 就業意向：当面はその企業・団体等で仕事を続けたい (n=763)
- 転職意向：転職することも視野に入れている (n=305)
- 転職意向：すぐに転職したいと思っている (n=38)



⑮大学・大学院の就職支援で役立った点

※前ページより続き

図表23-2 大学・大学院の就職支援で役立った点(複数回答、単位=%)

	大 学 生 (n=)	文 系 (1,085)	国 公 立 (133)	私 立 (951)	理 系 (540)	国 公 立 (195)	私 立 (346)	東 北 海 道 ・ (134)	関 東 (607)	中 部 (312)	近 畿 (359)	四 国 ・ 中 国 (108)	九 州 (105)	大 学 院 生 (201)
卒業後のキャリアや就職に関する授業	29.1	31.2	22.8	32.4	24.8	25.5	24.5	20.3	28.7	34.4	29.9	23.9	29.8	13.9
卒業後のキャリアや就職に関するガイダンス・セミナー	22.3	22.6	18.5	23.2	21.7	26.4	19.1	27.3	20.8	21.6	25.2	26.0	13.0	14.9
OB・OGの紹介や交流機会の提供	7.3	6.8	10.6	6.3	8.4	13.0	5.8	3.2	7.9	9.1	5.7	8.5	8.3	13.4
就職活動の進め方全般に関するガイダンス・セミナー	24.3	24.2	23.7	24.2	24.6	26.2	23.7	26.7	22.9	29.7	22.3	27.7	17.1	14.4
自己分析に関するガイダンス・セミナー	19.9	20.4	18.1	20.7	19.1	17.7	19.8	18.9	20.4	19.6	21.3	18.2	16.3	13.9
業種・職種に関するガイダンス・セミナー	13.8	13.8	10.9	14.3	13.7	14.6	13.3	13.0	14.2	15.8	13.3	17.5	4.9	10.0
ビジネスマナーに関するガイダンス・セミナー	12.0	12.6	8.1	13.2	10.7	15.2	8.1	13.8	12.3	11.3	10.0	21.6	6.4	4.0
履歴書・エントリーシートなどの対策講座・セミナーや個別指導	25.1	25.4	18.4	26.3	24.5	17.4	28.5	28.3	22.6	33.2	23.7	23.3	17.5	16.4
筆記試験・適性テストなどの対策講座・セミナー	11.9	13.3	8.8	14.0	8.9	7.8	9.6	12.9	12.6	12.5	9.9	16.0	6.8	3.0
面接やグループディスカッションなどの対策講座・セミナーや個別指導	18.3	19.0	19.8	18.8	16.9	12.4	19.5	15.8	16.0	21.6	20.8	21.6	12.7	11.4
資格取得支援に関する講座・セミナー	6.4	6.5	3.9	6.8	6.4	7.2	5.9	2.7	5.8	7.6	8.1	8.8	3.4	0.5
公務員試験・教員試験の対策講座	5.0	5.2	7.7	4.9	4.7	3.7	5.2	2.1	5.3	6.4	4.4	6.9	3.6	2.0
キャリアや就職に関する個別相談・カウンセリング	10.4	11.1	7.0	11.7	8.9	9.6	8.6	6.2	10.4	13.1	10.8	10.3	6.2	7.0
学内企業説明会の開催	20.6	19.3	21.4	19.0	23.2	19.2	25.4	20.6	20.9	24.9	17.5	17.9	19.1	23.4
キャリアセンター・就職部による企業の求人情報の紹介	5.3	4.9	4.3	5.0	6.0	9.9	3.8	3.3	3.0	4.9	5.6	18.1	7.5	1.5
インターンシップに関するガイダンス	7.2	6.0	3.5	6.3	9.8	10.2	9.6	4.3	8.1	8.0	7.4	8.9	1.4	3.5
インターンシップ先の紹介・斡旋	3.9	3.7	4.1	3.6	4.2	4.9	3.8	4.9	2.9	5.7	2.2	8.9	3.5	0.5
正課内で行われるインターンシップ(単位取得あり)	3.5	3.1	3.6	3.0	4.2	7.4	2.4	1.2	2.7	4.1	3.2	8.9	4.3	2.5

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色■、10ポイント以上低いセルを濃い青色■、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色■で網掛けした。

⑩従業員規模の志向

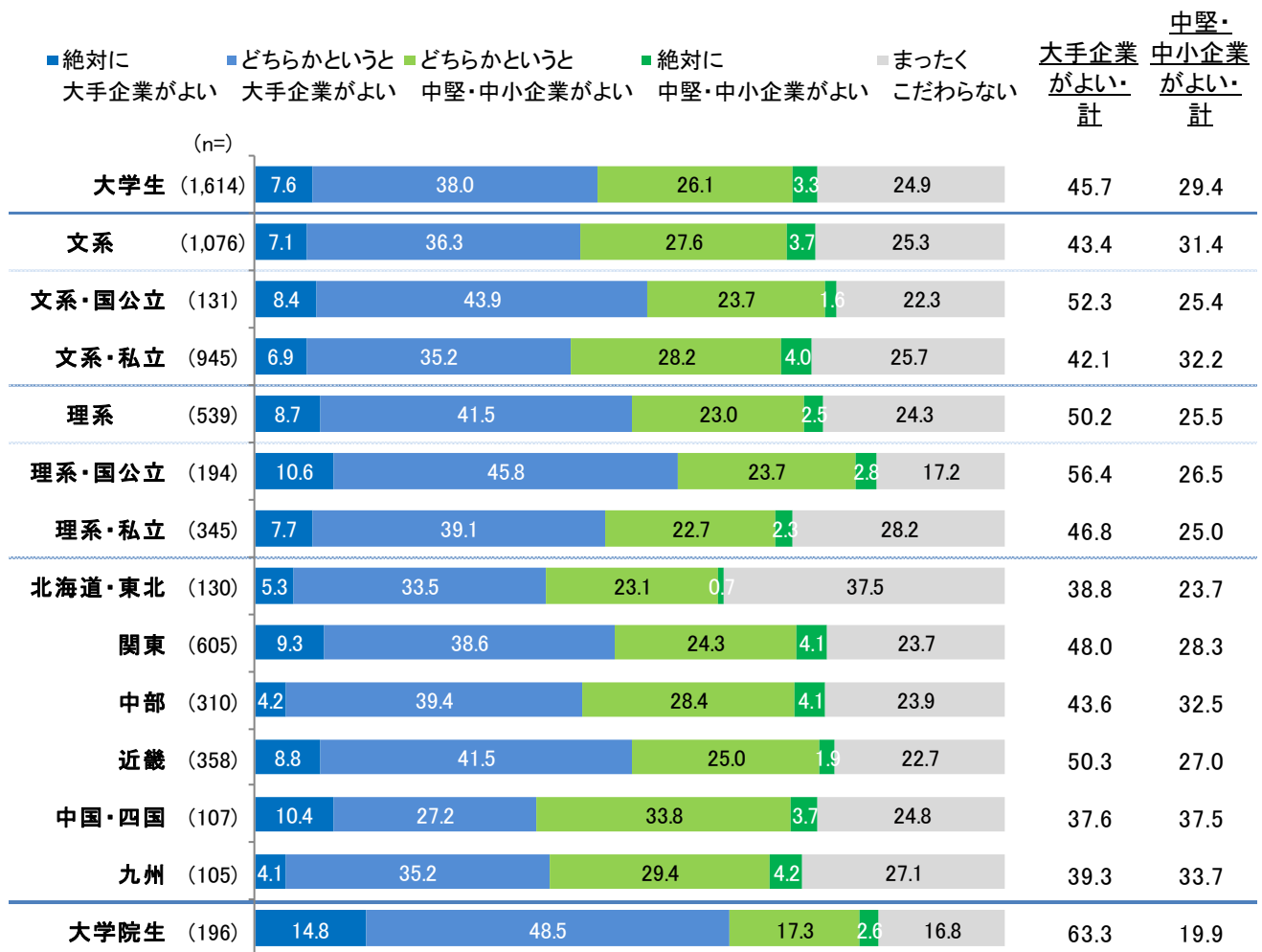
大学生の志望従業員規模は、「大手派」が4割半ば、「中堅・中小企業派」が3割弱、「こだわらない派」が2割半ば。大学院生、国公立大学の大学生で、大手志向が強い。

就職活動の開始当初に志望した従業員規模は、大学生の4割半ば、大学院生の6割強が大手企業がよい・計(*)と回答している。大学生の2割半ば、大学院生の1割半ばがは、「まったくこだわらない」と回答している。

属性別にみると、文系・理系ともに国公立大学の大学生では大手企業がよい・計がとて高い。(図表24)

*「絶対に大手企業がよい」「どちらかというと大手企業がよい」の回答者を合計

図表24 就職活動開始当初の志望従業員規模(単一回答、単位=%)
※企業就職志望者ベース



※大手企業がよい・計:「絶対に大手企業がよい」+「どちらかというと大手企業がよい」

※中堅・中小企業がよい・計:「どちらかというと中堅・中小企業がよい」+「絶対に中堅・中小企業がよい」

⑯従業員規模の志向

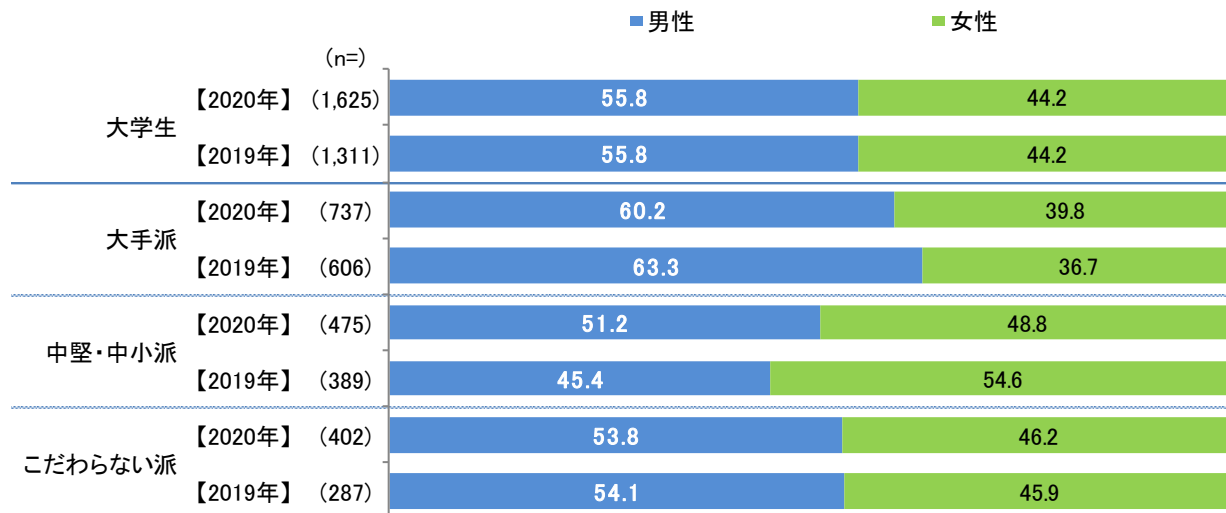
志望従業員規模別の属性は、「大手派」（「絶対に大手企業がよい」「どちらかという大手企業がよい」）で「男性」「関東」居住者の割合が高い。（図表25、26）

志望従業員規模別の就職予定先の納得度は、すべての属性で約9割が納得している・計（※）と回答しているが、「大手派」は「納得している」が大学生全体に比べて高い。（図表27）

※「納得している」「まあ納得している」の回答者を合計

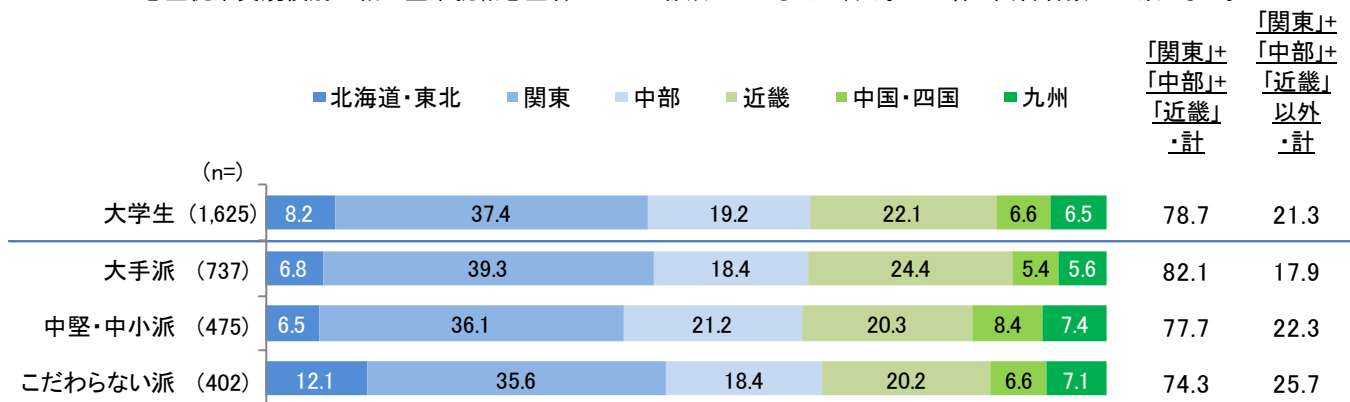
図表25 志望従業員規模別の性別（単一回答、単位=%）

※志望従業員規模別の軸は企業就職志望者ベースで作成しているため、大学生全体と回答者数は一致しない。



図表26 志望従業員規模別の居住地（単一回答、単位=%）

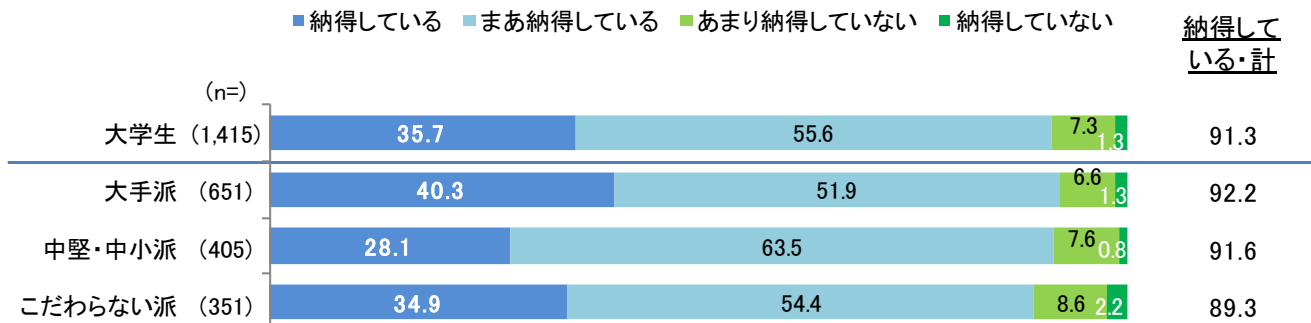
※志望従業員規模別の軸は企業就職志望者ベースで作成しているため、大学生全体と回答者数は一致しない。



図表27 志望従業員規模別の就職予定先の納得度状況（単一回答、単位=%）

※就職確定者ベースに限定して聴取。

※志望従業員規模別の軸は企業就職志望者ベースで作成しているため、大学生全体と回答者数は一致しない。



※納得している・計：「納得している」+「まあ納得している」

⑩従業員規模の志向

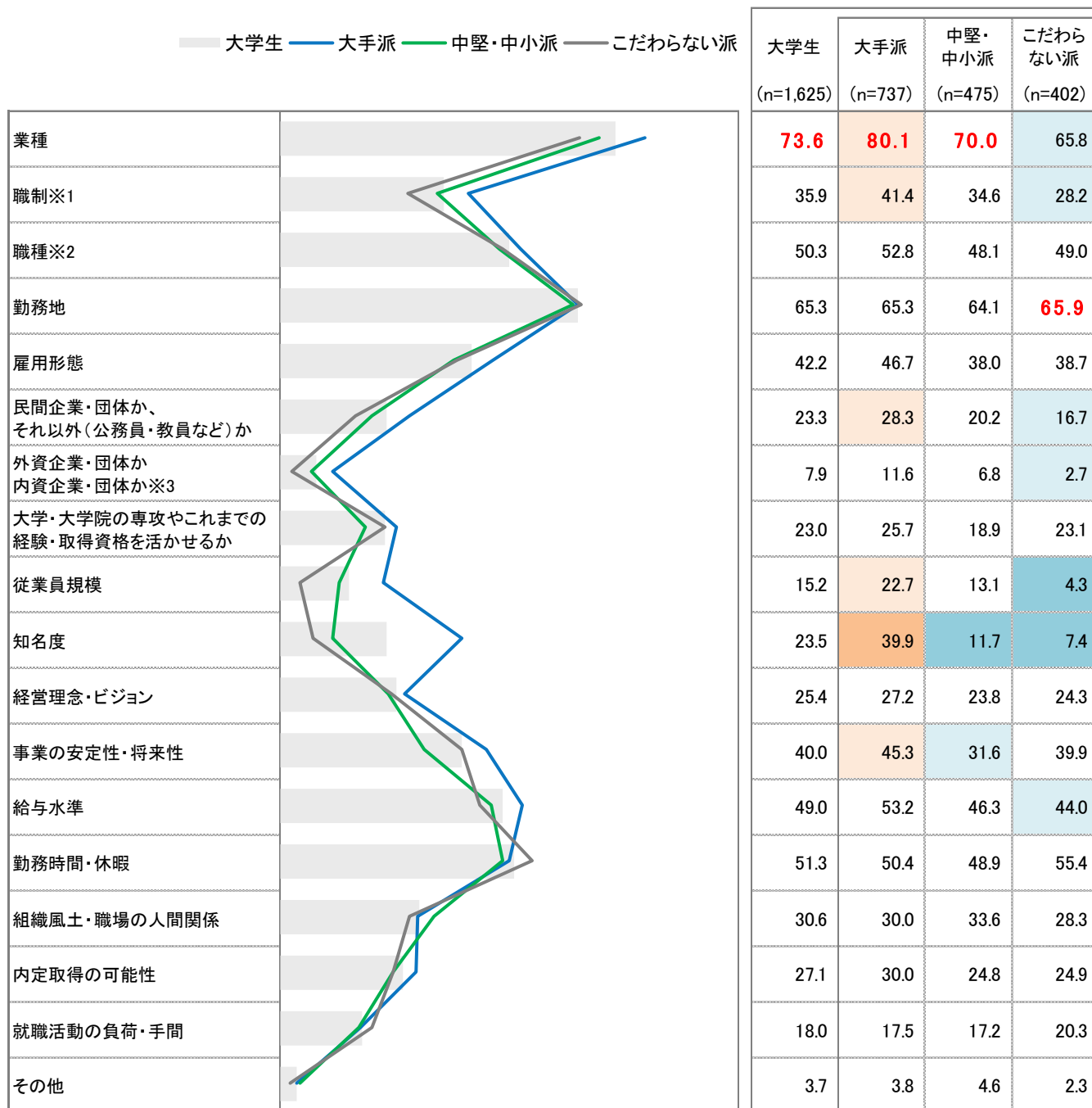
志望従業員規模別の就職活動開始当初の重視点は、「大手派」（「絶対に大手企業がよい」「どちらかというと大手企業がよい」）、中堅・中小派（「絶対に中堅・中小企業がよい」「どちらかというと中堅・中小企業がよい」）で「業種」、「こだわらない派」（「全くこだわらない」）で「勤務地」が最も高い。

「大手派」では「知名度」「職制」「民間企業・団体か、それ以外（公務員・教員など）」「従業員規模」「事業の安定性・将来性」の重視度が高い。（図表28-1）

図表28-1 志望従業員規模別の就職活動開始当初の重視点（複数回答、単位=%）

※就職確定者ベースに限定して聴取。

※志望従業員規模別の軸は企業就職志望者ベースで作成しているため、大学生全体と回答者数は一致しない。



※1: 例) 総合職、一般職、地域・職域限定職など

※2: 例) 営業職、企画職、事務職、技術職など

※3: 外資＝日本国外に本社がある企業・団体、内資＝日本国内に本社がある企業・団体

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色□、10ポイント以上低いセルを濃い青色■、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色□で網掛けした。

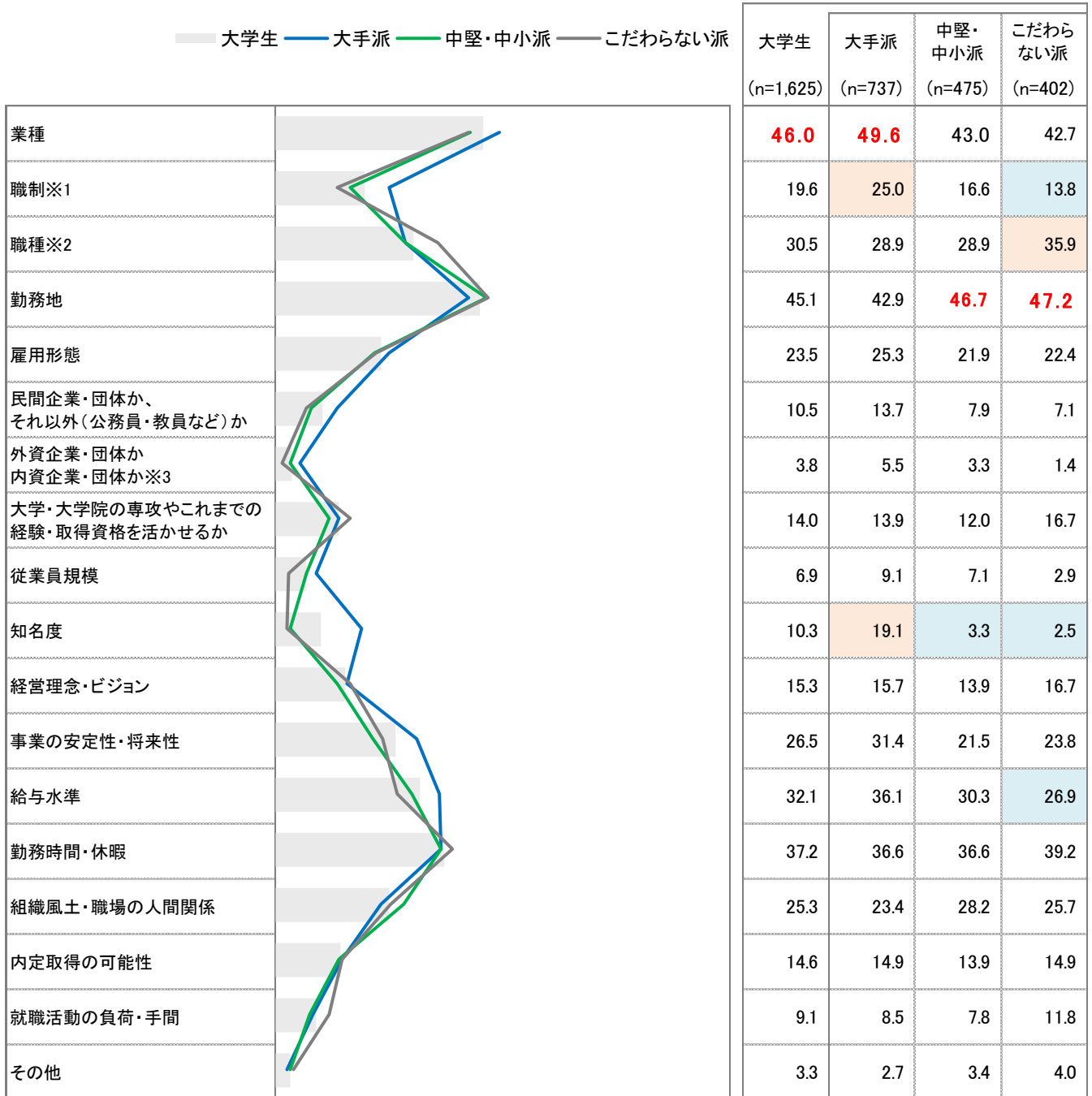
⑩従業員規模の志向

志望従業員規模別の就職予定先を選ぶときの重視点は、「大手派」で「業種」が最も高い一方で、「中堅・中小派」、「こだわらない派」は「勤務地」が最も高い。(図表28-2)

図表28-2 志望従業員規模別の就職予定先を選ぶときの重視点(複数回答、単位=%)

※就職確定者ベースに限定して聴取。

※志望従業員規模別の軸は企業就職志望者ベースで作成しているため、大学生全体と回答者数は一致しない。



※1: 例) 総合職、一般職、地域・職域限定職など

※2: 例) 営業職、企画職、事務職、技術職など

※3: 外資＝日本国外に本社がある企業・団体、内資＝日本国内に本社がある企業・団体

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

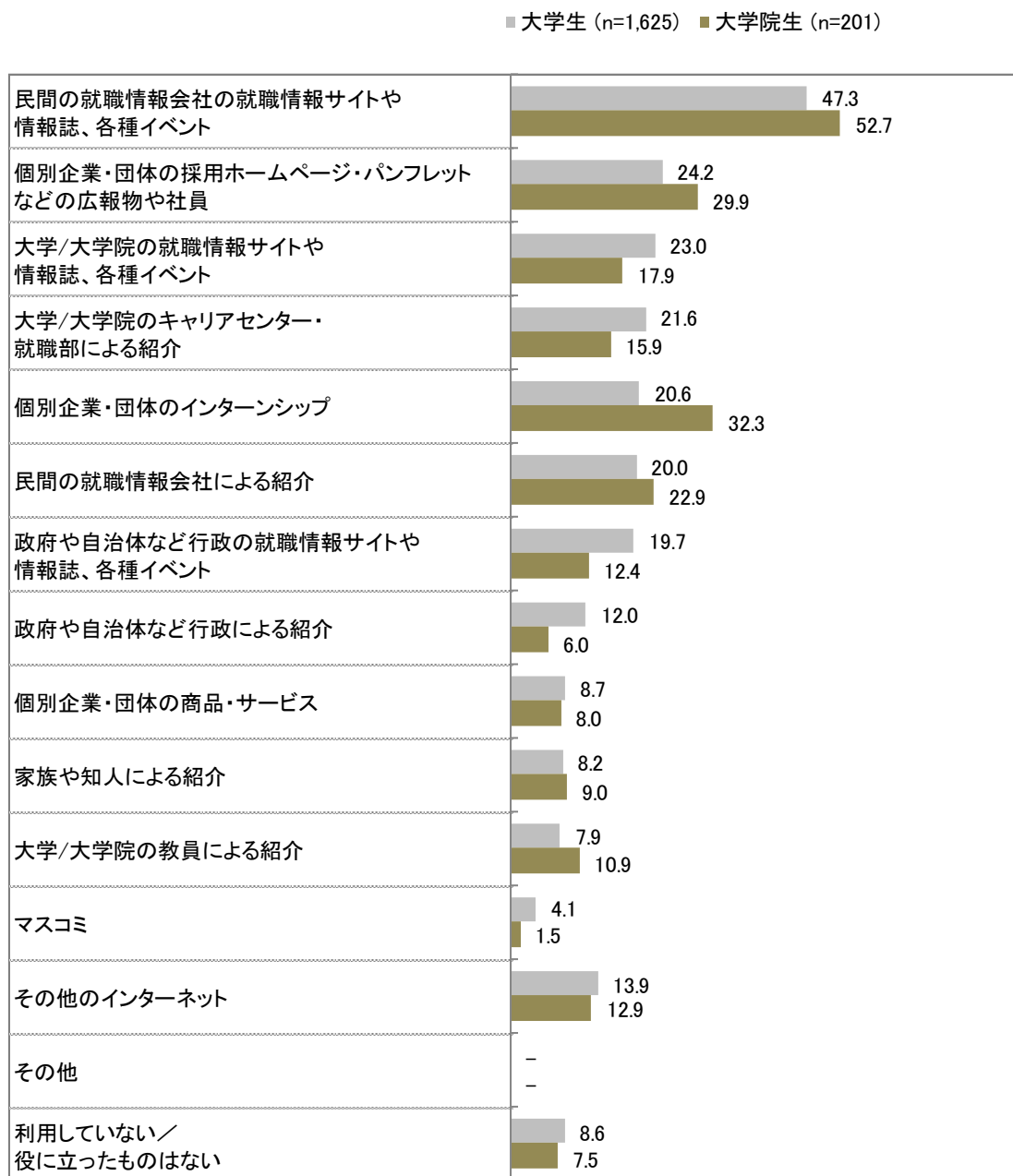
* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色■、10ポイント以上低いセルを濃い青色■、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色■で網掛けした。

⑪ 役立つ情報源

企業・団体等を選ぶときに利用した情報源は、大学生・大学院生ともに「民間の就職情報会社の就職情報サイトや情報誌、各種イベント」の割合が最も高い

大学生・大学院生ともに企業・団体等を選ぶときの情報源として利用したのは、「民間の就職情報会社の就職情報サイトや情報誌、各種イベント」の割合が最も高い。大学院生では「個別企業・団体の採用ホームページ・パンフレットなどの広報物や社員」「個別企業・団体のインターンシップ」なども高い。(図表29)

図表29 就職活動を通して、企業・団体等を選ぶときの情報源（複数回答、単位=%）



※「大学生」スコアで降順ソート

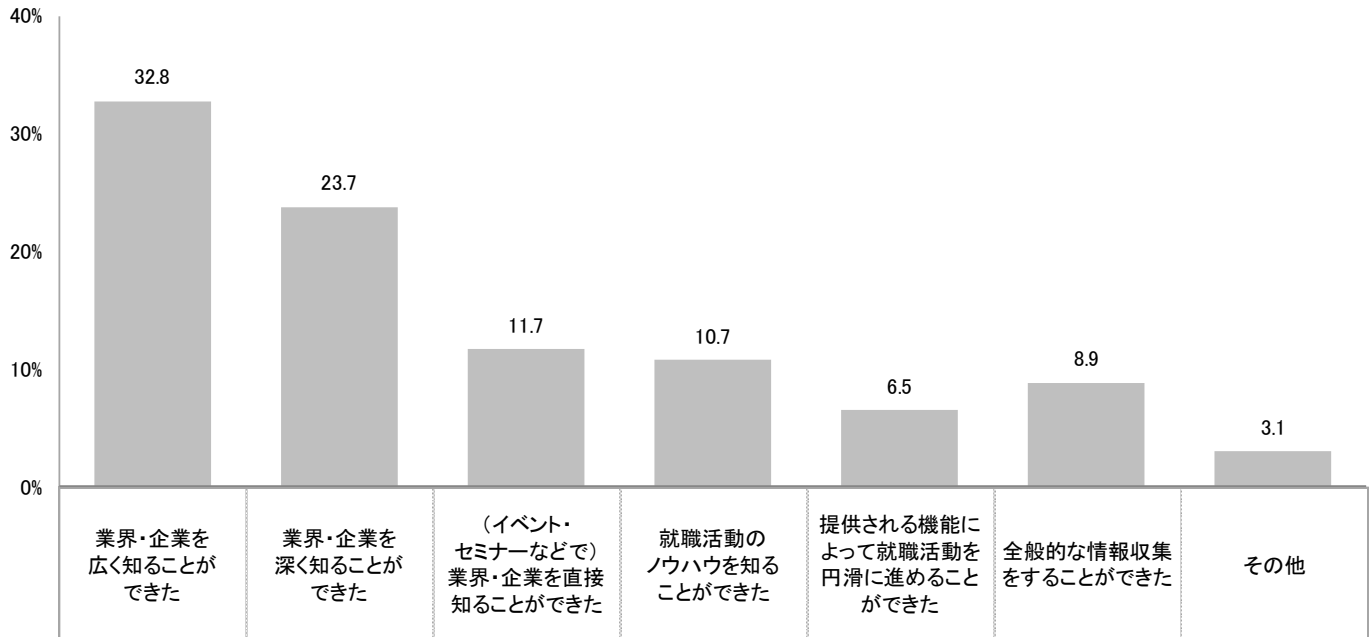
⑰ 役立った情報源

「民間の就職情報会社の就職情報サイトや情報誌、各種イベント」は、とくに業界研究や企業研究に役立っている。

民間の就職情報会社の就職情報サイトや情報誌、各種イベントで役立ったことについて、自由記述回答を分類すると、「業界・企業を広く知ることができた」「業界・企業を深く知ることができた」の順に割合が高い。業界・企業を知る機会については、「(イベント・セミナーなどで)業界・企業を直接知ることができた」の割合も高い。就職活動の進め方や選考プロセスごとの準備方法など「就職活動のノウハウを知ることができた」、複数エントリーやスケジュール管理機能など「提供される機能によって就職活動を円滑に進めることができた」という回答もみられる。(図表30)

図表30 民間の就職情報会社の就職情報サイトや情報誌、各種イベントで役立ったこと
(自由記述回答を分類、複数回答 単位=%)

■ 全体 (n=754)



コメント	ラベル
どんな企業があるのか、またその企業の事業内容などを知るのに役に立った。	業界・企業を広く知ることができた
知ってるといっても大体は大手企業が多い。中堅、中小でもいい企業があるということを知るためには大いに役に立った。	業界・企業を広く知ることができた
自分が志望している企業の同業他社を同じタイミングで比べることができ、どうしてこの企業がいいのか、なぜこの業種がいいのかと考えることができた。	業界・企業を深く知ることができた
給与や選考のプロセスなど、企業に直接聞きにくい情報も書かれていた。	業界・企業を深く知ることができた
大きな企業説明会で今の就職先の話を初めて聞いた。思っていた印象とだいぶ違ったので、この機会がなければ出会うことはなかったと思う。	(イベント・セミナーなので) 業界・企業を直接知ることができた
イベントで多くの企業の説明会に参加・予約ができるというのかなり就活で役に立った。	(イベント・セミナーなので) 業界・企業を直接知ることができた
就活のことが何もわからなかったので、就活がどのようなものなのかという手順で進めていくのかというおおまかな流れを知れた。	就職活動のノウハウを知ることができた
自己PRの書き方や、就職活動の進め方などを知ることができた。何かあると情報サイトをその都度確認した。	就職活動のノウハウを知ることができた
スケジュールの管理がしやすかった。	提供される機能によって 就職活動を円滑に進めることができた
自己分析や説明会、インターンシップの申し込みに役立った	提供される機能によって 就職活動を円滑に進めることができた

⑱ インターンシップの参加状況

インターンシップ参加時期は、大学生で「大学3年生8月」の割合が最も高い。

初めて参加した時期は大学生・大学院生ともに「大学3年/大学院1年の8月」の割合が最も高い。

インターンシップ参加者におけるインターンシップ参加時期は、大学生で「大学3年生8月」、大学院生で「大学4年生3月以降」が最も高い。

属性別にみても、共通して「大学3年生8月」が最も高い。(図表31-1)

インターンシップに初めて参加した時期は、大学生・大学院生ともに「大学3年/大学院1年の8月」が最も高い。(図表31-2)

図表31-1 インターンシップに参加した時期(複数回答、単位=%)

	大 学 生 (n=)	文 系 (859)	国 公 立 (106)	私 立 (753)	理 系 (444)	国 公 立 (170)	私 立 (274)	東 北 海 道 ・ (102)	関 東 (515)	中 部 (238)	近 畿 (293)	四 国 ・ 中 国 (75)	九 州 (81)	大 学 院 生 (163)
大学入学前	1.1	0.9	0.6	1.0	1.4	1.4	1.4	3.2	0.9	0.7	0.4	3.2	1.2	1.2
大学1年生	2.1	1.8	3.7	1.5	2.7	2.2	3.0	1.8	1.8	1.4	2.1	-	8.1	1.8
大学2年生	5.9	5.9	6.1	5.8	6.0	6.5	5.7	8.9	6.2	4.1	3.8	8.0	11.6	4.9
大学3年生4月	3.5	4.6	3.1	4.8	1.4	1.8	1.2	1.4	4.0	0.9	2.8	3.6	13.2	1.8
大学3年生5月	3.6	4.1	2.9	4.3	2.6	4.3	1.5	1.1	3.0	5.0	4.0	5.5	3.4	1.2
大学3年生6月	8.5	9.9	6.9	10.3	5.8	7.4	4.9	4.3	10.0	6.9	8.4	7.6	10.4	2.5
大学3年生7月	14.6	14.4	11.8	14.7	14.9	14.6	15.1	2.7	16.4	17.9	12.3	15.6	15.1	5.5
大学3年生8月	38.4	39.0	32.1	40.0	37.4	38.7	36.6	33.7	43.9	42.6	32.0	33.3	25.6	12.3
大学3年生9月	21.3	22.6	26.0	22.2	18.8	25.9	14.4	11.7	24.3	19.8	19.2	27.2	21.7	11.7
大学3年生10月	16.7	17.6	11.4	18.4	15.1	18.5	13.0	12.8	19.4	14.6	18.0	18.3	4.9	5.5
大学3年生11月	15.0	15.7	16.8	15.6	13.6	20.0	9.6	12.7	15.4	11.8	17.2	24.3	7.4	5.5
大学3年生12月	24.2	25.6	21.9	26.1	21.5	25.5	19.0	21.5	26.5	19.9	26.9	20.5	19.8	7.4
大学3年生1月	21.0	21.2	21.3	21.2	20.5	19.9	20.9	11.8	27.2	18.1	19.3	19.3	9.3	4.3
大学3年生2月	28.6	26.4	26.3	26.4	32.9	38.7	29.4	26.6	33.6	28.1	21.0	35.8	21.6	7.4
大学3年生3月	13.2	11.5	11.0	11.6	16.4	20.3	13.9	20.0	14.4	11.2	8.6	23.7	9.2	2.5
大学4年生4月	6.9	6.2	6.6	6.2	8.3	10.0	7.3	11.5	7.6	3.1	4.6	15.4	8.6	3.1
大学4年生5月	3.7	4.0	2.0	4.2	3.3	6.4	1.4	6.5	3.1	0.4	5.7	10.4	1.1	4.9
大学4年生6月	1.8	1.9	2.3	1.9	1.5	3.5	0.3	0.6	2.5	1.3	0.4	7.2	-	3.7
大学4年生7月	2.4	2.1	1.7	2.2	3.1	3.5	2.8	1.5	2.1	0.9	3.5	8.1	0.7	3.1
大学4年生8月	2.1	2.1	4.0	1.8	2.0	3.5	1.0	2.3	1.6	1.7	1.7	7.6	1.8	3.7
大学4年生9月	1.8	2.2	2.8	2.1	0.9	0.7	1.0	1.4	2.0	1.2	1.6	4.0	0.7	3.1
大学4年生10月	1.7	2.2	3.1	2.0	0.8	1.8	0.3	0.8	2.0	0.4	1.1	8.3	1.2	3.7
大学4年生11月	1.2	1.6	3.1	1.4	0.5	1.4	-	0.3	0.7	1.1	0.9	8.3	0.4	2.5
大学4年生12月	1.0	1.3	2.8	1.1	0.4	0.4	0.5	0.8	0.7	0.8	0.5	6.0	0.7	3.7
大学4年生1月	1.3	1.7	2.8	1.5	0.5	-	0.9	-	0.8	0.5	2.6	5.1	0.4	3.1
大学4年生2月	1.2	1.1	1.7	1.1	1.4	1.4	1.4	1.7	1.5	0.4	0.8	4.0	0.4	4.3
大学4年生3月以降	1.8	1.8	1.7	1.8	1.8	2.1	1.7	0.8	2.2	1.1	1.9	4.8	-	57.1

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤字にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色で網掛けした。

⑱ インターンシップの参加状況

図表31-2 インターンシップに初めて参加した時期(単一回答、単位=%)
※インターンシップ実施者ベースで作成。

	大 学 生 (n=)	文 系 (856)	国 公 立 (106)	私 立 (749)	理 系 (441)	国 公 立 (170)	私 立 (271)	東 北 北 海 道 ・ (102)	関 東 (514)	中 部 (238)	近 畿 (290)	四 国 ・ 中 国 (75)	九 州 (78)	大 学 院 生 (162)
大学3年/大学院1年の5月以前	8.5	9.0	7.0	9.3	7.5	11.0	5.3	8.4	9.2	8.2	6.8	9.6	9.7	7.4
大学3年/大学院1年の6月頃	3.3	3.1	2.8	3.1	3.9	3.5	4.1	—	3.9	3.7	3.6	4.8	0.4	3.7
大学3年/大学院1年の7月頃	7.5	8.8	7.5	8.9	5.2	3.9	6.0	1.0	9.8	9.4	5.1	5.7	6.4	8.0
大学3年/大学院1年の8月頃	19.5	18.4	17.4	18.5	21.8	17.1	24.7	15.7	18.4	28.4	19.0	12.7	13.6	19.8
大学3年/大学院1年の9月頃	8.5	8.5	9.2	8.4	8.5	14.9	4.5	16.4	5.6	5.4	11.4	7.8	17.3	11.1
大学3年/大学院1年の10月頃	5.8	6.3	8.2	6.0	5.0	3.5	5.9	6.2	6.4	2.8	7.0	5.3	7.3	5.6
大学3年/大学院1年の11月頃	5.4	6.1	7.5	5.9	4.0	3.5	4.2	4.3	5.1	6.0	6.9	1.2	5.4	2.5
大学3年/大学院1年の12月頃	6.2	5.7	7.3	5.4	7.3	8.6	6.5	6.0	6.5	6.1	7.3	1.2	5.4	8.6
大学3年/大学院1年の1月頃	7.5	6.9	6.5	7.0	8.6	8.3	8.9	12.4	6.1	8.0	7.1	6.5	12.0	11.1
大学3年/大学院1年の2月頃	8.6	7.5	11.2	6.9	10.8	13.2	9.3	4.9	8.5	7.4	7.0	22.5	10.1	11.1
大学3年/大学院1年の3月頃	8.0	8.8	6.5	9.2	6.3	2.8	8.5	14.7	7.8	6.8	7.2	7.6	6.9	4.3
大学4年/大学院2年の4月頃	5.2	5.2	4.2	5.3	5.3	6.0	4.9	4.7	5.6	5.3	4.3	8.0	3.9	1.9
大学4年/大学院2年の5月頃	1.6	2.1	1.7	2.2	0.7	0.4	0.9	1.7	2.4	0.5	1.5	1.2	0.8	—
大学4年/大学院2年の6月頃	0.7	1.1	1.8	1.0	—	—	—	1.5	0.2	0.5	1.4	1.2	0.8	3.1
大学4年/大学院2年の7月頃	1.0	0.8	0.6	0.8	1.4	—	2.3	0.6	1.2	0.4	1.7	—	—	0.6
大学4年/大学院2年の8月頃	1.2	1.1	—	1.3	1.4	2.8	0.5	0.8	1.4	—	1.8	3.2	—	—
大学4年/大学院2年の9月頃	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	—	0.5	—	0.2	0.4	0.4	0.9	—	0.6
大学4年/大学院2年の10月頃	0.5	0.2	0.3	0.2	0.9	—	1.4	—	0.7	0.4	0.5	—	—	—
大学4年/大学院2年の11月以降	0.5	0.2	—	0.3	1.1	0.4	1.6	0.7	0.9	0.4	—	0.8	—	0.6

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色□、10ポイント以上低いセルを濃い青色■、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色□で網掛けした。

⑱ インターンシップの参加状況

**インターンシップの認知きっかけは「就職情報サイト／就職情報アプリ／就職情報誌」が最も高い。
参加期間は、大学生・大学院生ともに「1日」が中心も、大学院生では長期参加者の割合も高い。**

インターンシップを認知したきっかけは、大学生・大学院生ともに「就職情報サイト／就職情報アプリ／就職情報誌」が最も高い。属性別にみると、国公立大学の理系大学生で「大学」の割合がとて高い。(図表32)

インターンシップの参加期間は、大学生・大学院生ともに「1日」の割合が最も高いが、大学院生では大学生に比べて「1週間以上2週間未満」といった比較的長期の参加期間の割合も高い。(図表33)

図表32 インターンシップの認知きっかけ(複数回答、単位=%)

	大学生 (n=)	文系 (859)	国公立 (106)	私立 (753)	理系 (444)	国公立 (170)	私立 (274)	東北 北海道 (102)	関東 (515)	中部 (238)	近畿 (293)	四国 中国 (75)	九州 (81)	大学院生 (163)
企業／官公庁／組織・団体等の サイト	30.7	30.2	32.9	29.9	31.7	26.3	35.0	18.3	35.4	26.2	33.5	26.8	23.8	35.0
大学	43.0	41.9	40.2	42.1	45.0	55.6	38.4	55.9	37.3	49.8	39.1	58.8	41.8	33.1
就職情報サイト／ 就職情報アプリ／就職情報誌	59.7	58.9	59.2	58.9	61.1	60.9	61.2	51.0	60.1	55.1	62.3	70.2	62.0	72.4
インターンシップ斡旋団体 (NPO含む)のサイト等	5.5	4.1	3.4	4.2	8.2	9.2	7.5	2.7	4.8	10.7	3.2	9.7	2.2	5.5
ソーシャルメディア(Facebook、 Twitter、LINE、Instagram等)	3.8	4.3	1.5	4.6	2.8	3.5	2.3	3.7	5.4	4.8	1.0	1.2	2.1	1.2
その他	1.2	1.4	4.0	1.0	0.8	1.8	0.3	1.4	1.6	0.3	1.8	0.4	-	1.2

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色で網掛けした。

図表33 インターンシップの参加期間(複数回答、単位=%)

	大学生 (n=)	文系 (859)	国公立 (106)	私立 (753)	理系 (444)	国公立 (170)	私立 (274)	東北 北海道 (102)	関東 (515)	中部 (238)	近畿 (293)	四国 中国 (75)	九州 (81)	大学院生 (163)
1日	69.1	67.6	60.8	68.6	71.8	71.2	72.2	73.4	72.5	65.9	64.6	81.0	56.2	63.8
2日	16.4	17.8	22.6	17.1	13.8	19.5	10.2	18.3	17.2	11.8	16.3	22.4	17.5	29.4
3日以上1週間未満	25.8	27.1	36.4	25.8	23.3	25.9	21.7	22.0	25.2	28.4	26.0	29.9	22.3	32.5
1週間以上2週間未満	12.7	12.6	11.0	12.8	13.1	15.6	11.6	7.1	9.5	16.0	18.1	8.5	15.5	21.5
2週間以上1ヶ月未満	5.6	4.6	4.5	4.6	7.5	10.0	5.9	9.5	4.8	8.1	4.5	6.8	0.7	10.4
1ヶ月以上3ヶ月未満	3.0	3.1	3.5	3.1	2.6	2.6	2.6	1.8	4.1	2.2	2.9	1.4	0.8	4.9
3ヶ月以上	3.3	3.9	3.7	3.9	2.1	3.3	1.4	-	5.2	3.1	1.5	1.2	4.5	1.2

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色、10ポイント以上低いセルを濃い青色、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色で網掛けした。

⑱ インターンシップの参加状況

**インターンシップ先を選ぶ際の重視点は、大学生・大学院生ともに「業種」最も高い。
大学院生で「職種」「インターン内容」「企業名」の重視度が高い。**

インターンシップ先を選ぶ際に重視した点は、大学生・大学院生ともに「業種」が最も高い。また、大学院生で「職種」「インターン内容」「企業名」の重視度が高い。

属性別にみると、国公立大学の文系大学生では「企業名」、私立大学の理系大学生では「職種」の割合が高い。
(図表34)

図表34 インターンシップ先を選ぶ際に重視した点(複数回答、単位=%)

	大 学 生 (n=)	文 系 (859)	国 公 立 (106)	私 立 (753)	理 系 (444)	国 公 立 (170)	私 立 (274)	東 北 海 道 ・ (102)	関 東 (515)	中 部 (238)	近 畿 (293)	四 国 ・ 中 国 ・ (75)	九 州 (81)	大 学 院 生 (163)
業種	56.0	56.8	60.0	56.3	54.3	53.4	55.0	59.7	58.2	52.5	53.1	61.1	52.4	65.6
職種	40.7	39.5	32.7	40.5	42.9	32.1	49.7	38.0	42.8	41.6	37.1	50.2	31.9	51.5
会場(地域・場所)	34.4	34.1	36.3	33.8	34.9	35.8	34.3	35.2	30.6	38.9	37.7	35.0	31.7	32.5
インターン内容	41.6	41.1	46.1	40.4	42.4	40.6	43.5	35.3	42.8	38.4	46.5	37.5	36.6	52.8
企業・各種団体等の 規模	11.4	10.5	7.1	11.0	13.1	16.0	11.2	5.1	11.6	14.5	9.7	12.4	13.6	9.2
企業名	18.1	17.7	23.2	16.9	19.0	21.6	17.3	17.5	17.6	24.2	16.7	16.8	11.2	32.5
日程・期間	30.4	31.9	34.5	31.5	27.6	25.2	29.1	33.8	32.1	29.4	26.2	35.8	28.9	34.4
報酬	5.6	6.4	8.6	6.1	4.0	4.9	3.5	12.2	6.0	4.6	4.1	6.1	2.8	4.9
採用選考に直結 するかどうか	10.8	10.5	8.8	10.7	11.4	10.6	11.9	8.8	15.5	8.5	5.9	8.1	10.3	9.8
その他	0.5	0.3	－	0.4	0.7	1.4	0.2	0.8	0.3	1.0	0.4	－	－	－

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を**赤太字**にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色□、10ポイント以上低いセルを濃い青色■、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色□で網掛けした。

⑱ インターンシップの参加状況

**インターンシップの参加目的は、大学生・大学院生ともに「業種理解」が最も高い。
文系大学生と大学院生において「仕事理解」の割合が高い。**

インターンシップの参加目的は、大学生・大学院生ともに「業種理解」が最も高い。

属性別にみると、文系大学生および大学院生は、「仕事理解」の割合が高い。(図表35)

図表35 インターンシップの参加目的(複数回答、単位=%)

	大 学 生 (n=)	文 系 (859)	国 公 立 (106)	私 立 (753)	理 系 (444)	国 公 立 (170)	私 立 (274)	東 北 海 道 ・ (102)	関 東 (515)	中 部 (238)	近 畿 (293)	四 国 ・ 中 国 (75)	九 州 (81)	大 学 院 生 (163)
業種理解	56.1	56.9	57.6	56.8	54.6	58.7	52.0	57.7	59.0	55.0	51.0	60.9	52.5	56.4
仕事理解	49.0	52.0	51.9	52.0	43.1	40.2	44.9	37.4	53.2	51.0	47.4	43.4	41.7	56.4
企業・各種団体等の 事業内容理解	33.6	34.3	33.6	34.4	32.1	30.6	33.0	27.4	36.9	39.3	29.7	24.8	25.3	35.6
企業・各種団体等・ 職場の雰囲気を知る	32.1	33.7	38.6	33.0	29.1	24.5	31.9	24.3	30.1	38.1	36.3	30.0	24.1	36.8
自分のスキルの見極め	18.1	17.3	17.7	17.3	19.6	20.7	18.8	11.8	16.7	26.8	16.5	19.9	13.4	19.0
自分自身のキャリア 観を明確にする	14.9	15.6	13.4	16.0	13.4	19.1	9.9	5.9	11.8	19.9	19.6	16.0	12.8	16.0
大学カリキュラムの 単位取得	7.1	7.1	8.5	6.9	7.2	9.0	6.1	4.2	6.6	9.5	6.9	7.8	7.4	5.5
内定獲得(採用直結)	13.5	12.8	12.2	12.9	14.8	16.6	13.7	7.0	16.9	11.4	12.2	19.7	4.4	17.2
社会人との人脈構築	8.4	7.3	6.0	7.4	10.7	20.9	4.3	6.8	6.4	8.2	8.7	20.8	11.3	7.4
他の就職活動生との 人脈構築	7.1	6.8	6.6	6.8	7.6	8.2	7.2	4.6	4.5	10.0	7.9	15.6	6.6	4.9
報酬	3.3	3.2	5.7	2.9	3.4	2.8	3.7	3.7	4.7	2.1	2.0	3.6	1.8	1.2
その他	0.7	0.5	0.6	0.5	1.0	1.8	0.5	—	0.3	2.1	0.4	—	0.9	1.2
特に意識していた目的 はなかった	6.2	6.7	6.3	6.8	5.3	2.5	7.0	8.8	6.4	4.0	6.2	6.1	8.6	6.7

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色□、10ポイント以上低いセルを濃い青色■、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色□で網掛けした。

18 インターンシップの参加状況

インターンシップに参加して良かった点は、大学生では「業種について具体的に知ることができた」が最も高い。大学院生では「仕事内容を具体的に知ることができた」が最も高い。

インターンシップに参加してよかった点は、大学生で「業種について具体的に知ることができた」、大学院生で「仕事内容を具体的に知ることができた」の割合が最も高い。また、大学院生で「企業・各種団体等の事業内容を具体的に知ることができた」「企業・各種団体等・職場の雰囲気を知ることができた」の割合が高い。

地域別にみると、中国・四国の大学生は、「自分のスキルを見極めることができた」「社会人との人脈を作れた」の割合が、大学生全体に比べてとくに高い。(図表36)

図表36 インターンシップに参加してよかった点(複数回答、単位=%)

	大 学 生 (n=)	文 系 (859)	国 公 立 (106)	私 立 (753)	理 系 (444)	国 公 立 (170)	私 立 (274)	東 北 海 道 ・ (102)	関 東 (515)	中 部 (238)	近 畿 (293)	四 国 ・ 中 国 (75)	九 州 (81)	大 学 院 生 (163)
業種について具体的に 知ることができた	52.3	52.0	59.1	51.0	52.8	55.4	51.1	52.2	54.9	51.1	47.1	59.8	50.7	57.7
仕事内容を具体的に 知ることができた	45.2	45.6	47.3	45.4	44.5	42.0	46.1	37.3	47.1	45.2	44.4	50.4	41.7	60.1
企業・各種団体等の 事業内容を具体的に 知ることができた	29.5	29.9	30.2	29.8	28.7	33.7	25.7	24.6	31.6	33.1	27.8	30.6	16.3	38.7
企業・各種団体等・ 職場の雰囲気を知 ることができた	30.9	31.7	35.1	31.2	29.3	31.0	28.2	33.4	30.7	31.4	33.0	24.0	25.8	36.2
自分のスキルを 見極めることができた	17.9	19.1	16.2	19.5	15.5	19.2	13.2	12.7	15.6	22.4	14.8	35.8	19.3	16.0
自分自身のキャリア観 を明らかにすることが できた	14.0	15.3	16.4	15.1	11.4	14.3	9.6	10.5	11.7	17.3	16.4	17.5	10.6	11.7
インターンシップに参加 した企業・各種団体等 から内定取得できた	10.8	10.8	9.7	11.0	10.8	12.8	9.5	7.6	10.4	11.2	12.1	15.1	7.6	16.6
社会人との人脈を 作れた	8.0	8.0	6.3	8.3	8.0	11.3	5.9	6.6	6.3	8.4	6.8	23.2	9.8	8.6
他の就職活動中の 学生との人脈を作れた	6.8	7.0	6.8	7.1	6.3	8.2	5.1	6.0	6.8	8.3	4.9	12.0	5.2	5.5
その他	0.5	0.6	1.4	0.5	0.3	0.4	0.3	0.3	0.7	0.6	-	-	1.1	0.6
特になし	10.8	10.5	7.5	10.9	11.4	9.5	12.5	16.5	9.2	8.6	12.7	12.1	12.2	9.8

* 属性ごとに選択率が最も多い区分を赤太字にした。

* 大学生全体の値と比べて、10ポイント以上高いセルを濃い橙色■、5ポイント以上10ポイント未満高いセルを薄い橙色□、10ポイント以上低いセルを濃い青色■、5ポイント以上10ポイント未満低いセルを薄い青色□で網掛けした。

⑱ インターンシップの参加状況

インターンシップ参加企業への入社予定は、大学生は3割半ば。

理系大学生・大学院生では、約7割がインターンシップ参加企業または同業種の企業に入社。

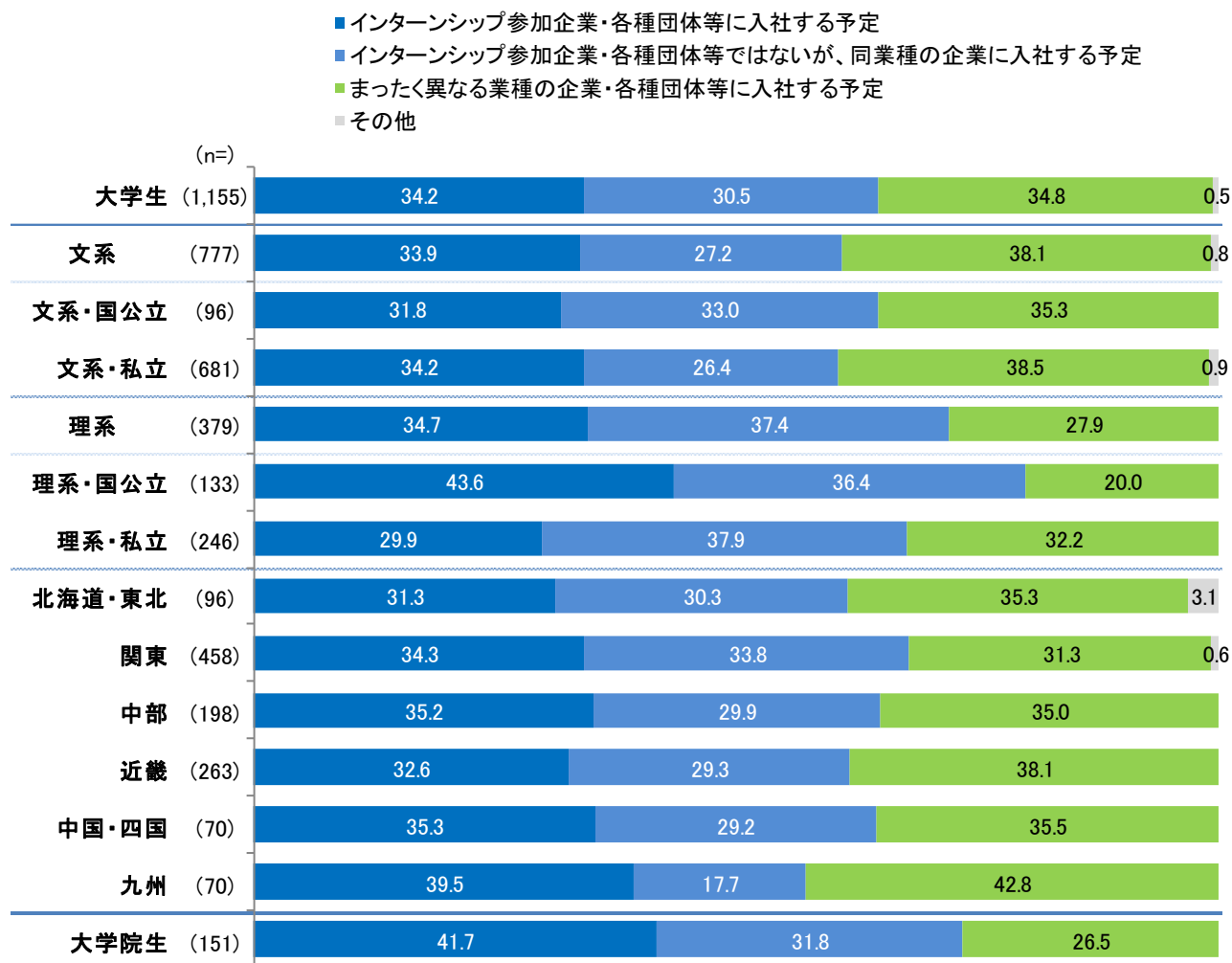
インターンシップに参加した企業／同業種への入社予定は、大学生は「インターンシップ参加企業・各種団体等に入社する予定」「インターンシップ参加企業・各種団体等ではないが、同業種の企業に入社する予定」「まったく異なる業種の企業・各種団体等に入社する予定」それぞれ約3割で拮抗している。

属性別にみると、文系大学生では「まったく異なる業種の企業・各種団体等に入社する予定」の割合やや高い。理系大学生では「インターンシップ参加企業・各種団体等ではないが、同業種の企業に入社する予定」の割合が高い。

大学院生は「インターンシップ参加企業・各種団体等に入社する予定」が約4割である。「インターンシップ参加企業・各種団体等ではないが、同業種の企業に入社する予定」と合わせると7割を超える。(図表37)

図表37 インターンシップに参加した企業／同業種への入社予定(単一回答、単位=%)

※就職確定者で、インターンシップ参加者ベース



●2013年卒以降のスケジュール変更の詳細

	大学3年・修士1年次						大学4年・修士2年次							
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
2013年卒 ～ 2015年卒			4カ月	広報期間			6カ月	選考期間						
2016年卒			3カ月繰り下げ			5カ月	4カ月繰り下げ			2カ月	選考期間			
2017年卒 ～					維持	3カ月	広報期間		4カ月	2カ月繰り上げ				

●調査備考

《地域区分の内訳》

- 北海道・東北＝ 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- 関東＝ 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- 中部＝ 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県
- 近畿＝ 三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 中国・四国＝ 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 九州＝ 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

《調査集計の留意点》

%を表示するために小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計値や差の数値と計算値が一致しない場合がある。

●公益社団法人全国求人情報協会とは

公益社団法人全国求人情報協会(理事長:鈴木孝二 略称:全求協)は、1985年2月に設立。全国の求人サイト・求人情報誌・折込求人紙・を運営・発行する67社の会員で構成されており、自主規制のための掲載基準作成、求人情報に関する苦情・相談業務や調査・研究などの活動を実施。年間求人広告件数は1767万9752件(2019年)にのぼる。

●新卒等若年雇用部会とは

新卒等若年雇用を巡る問題が我が国の労働市場における大きな課題となる中、その課題に取り組むための専門部会として、2013年に「新卒等若年雇用部会」を設置。マッチングの高度化を通じ、よりよい就職・採用がスムーズ行われるよう、とりわけ集团的就職活動特有の課題をまとめ、様々なアクションプラン等を検討、実行している。

●公益社団法人全国求人情報協会 新卒等若年雇用部会 会員企業 (社名五十音順)

株式会社アクセスネクステージ、株式会社アルバイトタイムス、株式会社イフ、株式会社学情、株式会社KG情報、株式会社廣済堂、株式会社ジェイ・ブロード、株式会社ダイヤモンド・ヒューマンリソース、株式会社ディスコ、株式会社文化放送キャリアパートナーズ、株式会社北海道アルバイト情報社、株式会社マイナビ、株式会社リクルートキャリア